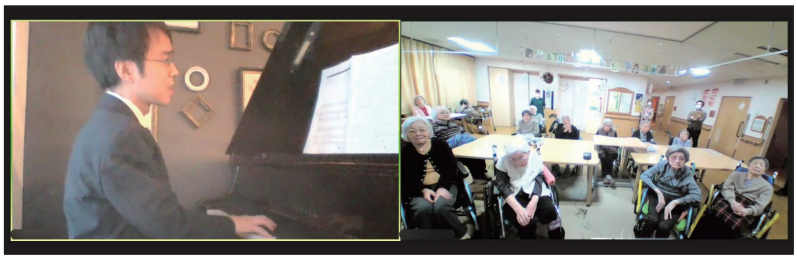
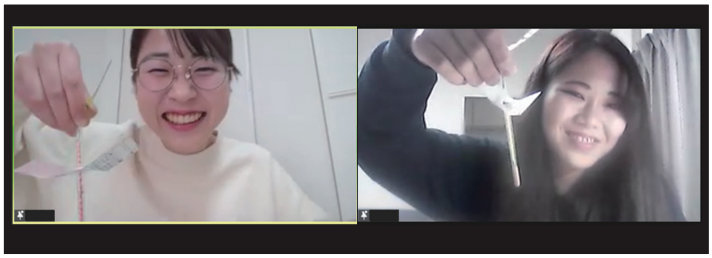


2020年度

明治大学
ボランティアセンター活動報告書

Meiji University Volunteer Center



MEIJI UNIVERSITY

2020 年度 ボランティアセンター活動報告書の刊行にあたって ～オンラインを活用した新たなボランティア活動支援～

浜本 牧子　ボランティアセンター長
（学務担当副学長兼学生部長、農学部教授）

はじめに、2020 年度は新型コロナウイルス一色に覆われた未曾有の 1 年となりましたが、ボランティアセンターの職員をはじめ各キャンパスのボランティアセンター関係者の尽力、また、学生たちの熱意によって、オンラインという新たなツールを活用し、創意工夫をして活動に取り組んでいただいたことに敬意を表します。

2020 年度はボランティアセンターの活動も“コロナ”の影響を強く受けた 1 年でした。それまでは、「対面」での活動が当たり前、換言すれば、「対面」であることを全く意識することなく行っていた活動が、突然不可能となりました。ボランティアセンターの当該年度の活動は、前年度のセンター運営委員会で提案、承認されているため、当初予定していた活動の中には中止や延期せざるを得ないものもありましたが、早い段階でオンラインを活用した活動への変更等を行い、この非常事態に柔軟に対応することにより、活動を継続することができました。

一方、オンラインを活用した活動にはメリットもあるという気づきもありました。一つは場所を選ばないこと、もう一つは時間や費用が節約できることです。つまり、インターネット環境が整っていれば、どこからでも参加が可能で、活動場所までの移動時間や移動のための費用が不要です。また、オンライン利用との相性がよい活動もあるという思いもよらない発見もありました。

さらに、キャンパスへの入構やキャンパス内での活動が制限されている状況下では、ボランティアセンターも閉室せざるを得ない事態となりましたが、オンライン開室という工夫により、従来、キャンパス内のセンターで行っていた学生からのボランティアに関する相談への対応や情報提供、及び学生同士の交流等を実施しました。このオンライン開室したセンターに来室した学生の中には、以前からキャンパス内のセンターに来室していた学生や新たにボランティア相談で来室した学生に加えて、入学後キャンパスに入構できていないため、同級生と出会ったり上級生の話を聞いたりすることを期待して来室している 1 年生が少なからずいることが明らかになりました。このような 1 年生への対応として、1 年生と上級生との交流を目的とした『オンライン学生ラウンジ』等が学生から提案、実施され、1 年生の抱える悩みや不安を上級生が受け止めて励ましたり、キャンパスの雰囲気を伝えたりするという新たな企画も誕生しました。

4 キャンパスのボランティアセンター活動としては、例年行っている関西大学及び法政大学との 3 大学ボランティア活動学生交流会及び報告会を実施し、コロナ禍におけるボランティア活動の課題や工夫について情報交換を行い、今後の活動に活かせる情報を得る機会となりました。

新型コロナウイルス感染症が日本国内で流行を始めてから 1 年以上が経過した現在でも、この感染症収束の先行きは不透明な状況です。このような状況下で、ボランティアセンターの活動を継続するために、様々な知恵と工夫で柔軟にご対応いただいている関係のみなさまにこの場を借りてあらためて深謝申し上げます。今後とも、ボランティアセンターの活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ボランティアセンターの理念・目的

学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送れるように、学生生活全般の充実とそのためのキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンターは、正課外教育の観点から、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的としている。

2020 年度ボランティアセンター運営委員会名簿

センター長	
農学部 教授	浜本　牧子
副センター長	
駿河台担当 文学部 准教授	平山　満紀
和泉担当 情報コミュニケーション学部 専任講師	髙橋　華生子
生田担当 農学部 専任講師	伊藤　善一
中野担当 総合数理学部 准教授	渡邊　恵太

運営委員			
理工学部 准教授 (ボランティアセンター担当副学生部長)	池田　有理	農学部 専任講師	瀬戸　義哉
法学部 教授	阪井　和男	経営学部 教授	中澤　高志
商学部 教授	中林　真理子	国際日本学部 准教授	岸　磨貴子
商学部 准教授	川口　啓太	学生支援部長	小野寺　幸子
政治経済学部 専任講師	柴田　有祐	学生支援事務長	田中　彰
文学部 教授	落合　弘樹	和泉学生支援事務長	東盛　達也
理工学部 准教授	川﨑　章司	生田学生支援事務長	大竹　貞昭
理工学部 准教授	岩瀬　顕秀	中野教育研究支援事務長	藤嶋　利生

駿河台キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）	
文学部 准教授	平山　満紀
分科会委員	
商学部 教授	中林　真理子
政治経済学部 専任講師	柴田　有祐
文学部 教授	落合　弘樹
事務局	
学生支援事務長	田中　彰
学生支援事務室	滝　由加子
学生支援事務室	秋山　智美
駿河台ボランティアセンター	大瀧　百恵

和泉キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）	
情報コミュニケーション学部 専任講師	髙橋　華生子
分科会委員	
法学部 教授	阪井　和男
商学部 准教授	川口　啓太
経営学部 教授	中澤　高志
和泉キャンパス課長	石川　恵資
事務局	
和泉学生支援事務長	東盛　達也
和泉学生支援事務室	川原　健
和泉ボランティアセンター	和田　更沙
和泉ボランティアセンター	中庭　藍

生田キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）	
農学部 専任講師	伊藤　善一
分科会委員	
理工学部 准教授	川﨑　章司
理工学部 准教授	岩瀬　顕秀
農学部 専任講師	瀬戸　義哉
生田キャンパス課	森下　剛
事務局	
生田学生支援事務長	大竹　貞昭
生田学生支援事務室	大須賀　克之
生田ボランティアセンター	藤掛　素子
生田ボランティアセンター	小林　優美子

中野キャンパスボランティア活動支援分科会

座長（副センター長）	
総合数理学部 准教授	渡邊　恵太
分科会委員	
国際日本学部 准教授	岸　磨貴子
事務局	
中野教育研究支援事務長	藤嶋　利生
中野教育研究支援事務室	稲川　悠介
中野教育研究支援事務室	三澤　祐子

目　次

●活動報告書発刊にあたって（ボランティアセンター長挨拶）　・・・ 1

●2020 年度 ボランティアセンター運営委員会・分科会名簿　・・・ 2

●目次　・・・ 3

●年間活動　・・・ 4-5

●活動報告

1　副センター長より　・・・ 6-7

2　センターが主催・コーディネートする活動　・・・ 8-50

3　学生の自主的な活動の支援　・・・ 51-59

●資料

ボランティアセンター来室者数・活動参加者数　・・・ 60

※表記について

明治大学では、「障害」の文字表記を「障がい」として統一しています。
ただし、固有名称および感想においては、この限りではありません。

2020 年度 明治大学ボランティアセンター年間活動

	駿河台ボランティアセンター	和泉ボランティアセンター
4月		
5月		• 杉並区高齢者との「お茶会」 P34
6月	• 駿河台オンライン開室 P9 • ひとりで考えない恋愛学（6月～3月） P16	• 和泉オンライン開室 P9 • 明大生ボランティア丸ごと紹介タイム オンライン版 P12
7月	• 駿河台オンライン開室 P9 • 防災ワークショップ P29 • ボランティア活動支援分科会	• 和泉オンライン開室 P9 • ボランティア活動支援分科会 • 明大生オンライントーク「ボランティアと学生生活」動画配信 P13
8月		
9月	• ピニャータの中身作りボランティア P33	
10月	• ホームカミングデーへの協力（学生団体 Tree） P42	• ボランティアサークル情報交換会 P17
11月	• 明大祭オンライン開催におけるスライド展示（Tree） P52	• ボランティアサークル情報交換会 P17
12月	• オンラインボランティアの魅力・体験談について語ります！ P19 • 防災ワークショップ P29 • ピニャータの中身作りボランティア P33 • Tree 総会 & 地域との交流会（Tree） P53	• 杉並区高齢者との「お茶会」 P34 • 高齢者施設オンライン企画 P36
1月		• 卒業生と話そう！キャリアと学生時代のボランティア P20 • ボランティア活動支援分科会 • 杉並区高齢者との「お茶会」 P34
2月	• バースデーカードと絵はがき作りボランティア P39 • ボランティア活動支援分科会	• 卒業生と話そう！キャリアと学生時代のボランティア P20 • 高齢者施設オンライン企画 P36 • 二階堂高校「ボランティア入門講座」体験談発表 P50
3月		• 杉並区高齢者との「お茶会」 P34
通年		• 公認ボランティアサークル活動一覧表 P11 • SNS を通じた情報発信 P51
4キャンパス合同	• 4キャンパス合同オンライン開室（11月～3月） P10 • 3大学オンライン交流会（8月～9月） P21 • オンライン講座：今更聞けないオンラインシリーズ（10月） P31	

生田ボランティアセンター	中野ボランティアセンター	
• 公式 Instagram の活用（4月～3月） P11 • 明治 2020@ikuta プログラム（4月～3月） P40		4月
• 生田オンライン開室（5月～3月） P8		5月
• 生田 DE 学生交流会 P14	• 韓国語教室（6月～7月） P24 • 日本語教室（6月～7月） P25 • 中国語教室（6月～7月） P26 • 英語教室（6月～7月） P28 • 手話カフェ（6月～7月） P30	6月
• ボランティア活動支援分科会 • 上級生によるオンライン学生ラウンジ P14		7月
• 上級生によるオンライン学生ラウンジ P14 • 科学教室の実験テーマ創り P43		8月
		9月
	• ボランティア活動支援分科会	10月
• お昼ご飯を食べようの会 P17 • 南相馬フリースペース（学生有志） P54 • エネルギー環境ワークショップへの出展（LINKs） P55 • 登戸まちなか遊縁地（LINKs） P57	• 手話カフェ（11月～12月） P30	11月
• ボラトーーク生田 P18 • 科学博士になろう① P44 • 科学博士になろう② P46 • ボッチャ体験会（LINKs） P58	• 日本語教室 P25 • 中国語教室 P26	12月
• ボランティア活動支援分科会		1月
	• NPO 法人による食材 & 日用品のお渡し会 P38	2月
• 科学博士になろう③ P48	• ボランティア活動支援分科会	3月
		通年
• 3大学オンライン活動報告会（3月） • ボランティアセンター運営委員会（年2回） • オンライン団体登録	P22	4キャンパス合同

副センター長より

コロナ禍で発見されたオンラインボランティア活動の可能性

平山 満紀　ボランティア副センター長
（駿河台担当、文学部准教授）

2020 年度は駿河台キャンパスのボランティア活動も、大きな変化を余儀なくされた。年度開始直前の 3 月のボランティアセンター運営委員会は、すでに新型コロナ流行が目立った時期だったので、新年度は計画の見直しを行い柔軟に新たな状況に対応しよう、という意見が運営委員間で共有された。しかし実際には 2020 年度は、学生も教職員も新たな生活様式や授業形態の構築だけで皆一杯になった。学生たちは孤独感、不安感などを募らせその解消を求めていただろうが、新たなニーズに応える、新たなスタイルでのボランティア活動を立ち上げた例は少数に留まった。計画していた活動の多くは、中止または簡単な形への変更となった。

だがこの一年間は、オンライン活動という新たな可能性にも気づかされた。恒例の「防災ワークショップ」を初めてオンライン開催にしたところ、遠方のキャンパスの学生たちからも熱心な参加を得ることができた。また学生スタッフの進行のもとで恋愛や性について自由に話し合う「ひとりで考えない恋愛学」も、従来の対面からオンラインに変更したところ、顕著な変化があった。参加や発言のハードルが、特に女子学生の間で大きく下がったのだ。

コロナ禍では社会的にも、緊急避妊ピルや生理の問題など、オンライン上で旧来のハードルが超えられて現実が動く現象が起きている。物理的距離やさまざまなハードルを越えられるオンラインボランティア活動の可能性を、対面活動の可能性に加え、引き続き探っていきたい。

ボランティア活動の意義を再考する時間

髙橋 華生子　ボランティア副センター長
（和泉担当、情報コミュニケーション学部専任講師）

新型コロナウィルスの感染拡大という未曾有の事態に見舞われるなか、私たちはさまざまな制約の中での生活を余儀なくされています。大学もその例外ではなく、学生の登校機会は著しく減少し、学外での活動も非常に限られています。そして、その影響はボランティアセンターの取り組みにも及んでいます。

当たり前に行っていたことができなくなった今、ボランティア活動というものが他者との触れ合いによって成り立つことを痛感しています。その触れ合いにおいて特に重要なのが、いろいろな人とつながることができる「物理的な空間」の存在です。特別な用事や理由はないけれども、気軽に足を運べる「場」があり、そこでの交流を通じて自分ができることを見つけ出していく。ボランティアセンターとは、まさにそうした機会を提供するところだといえます。

しかしながら、その「場」としての機能を発揮できない状況において、「何ができるのか」を模索する日々が続いています。2020 年度の成果を見ると、大幅な縮小を強いられたのは明らかです。オンラインで実施できることを何とか探し出す、これだけに費やされたといっても過言ではありません。

そのような困難に直面すると同時に、この 1 年はボランティア活動の意義に向き合う時間でもありました。コロナ禍の折、家計の急変などで生活が苦しくなる人や、辛い思いを抱えている人が増えています。こうした状況は、誰しもがボランティア活動の受け手にも送り手にもなりうることを改めて気づかせてくれました。

ボランティアとは他人事ではなく、自分たちの生活と密接に関係している、そういった当事者意識を学生とともに育んでいきたいと思います。

ボランティア活動の新しいかたち

伊藤 善一　ボランティア副センター長
（生田担当、農学部専任講師）

生田ボランティアセンター（生田 VC）は、農学部、理工学部のある生田キャンパスに設置されています。これまで、生田 VC では、理系の学生が学ぶキャンパスということもあり、「サイエンス」と「自然」を主なテーマとして、「災害復興」、「環境」、「子ども」、「地域」、「国際」、「福祉」などのテーマについても、多くの学生が主体的に参加し、幅広いボランティア活動を行ってきました。

2020 年度は、新型コロナウイルスの影響により、ボランティア活動の形態が大きく変化しました。ボランティアとは、人と人とのふれあい、対面で行うことがこれまで当たり前でしたが、新型コロナウイルスにより、対面でのボランティア活動をほとんど行うことができなくなってしまいました。そのような状況の中でも、「ボランティア活動をしたい」という学生たちからの熱い要望をうけて、オンラインで実施できるボランティアを模索し、いくつかの活動についてはオンラインで実施することができました。また、学生からの相談に積極的に対応し、ボランティア活動を支援するため、生田 VC では、オンラインで開室を行いました。従来の対面での開室時には遠く及びませんが、500 名を超える学生が訪問してくれました。

もうしばらくこの状況が続きそうですが、ボランティア活動の新しいかたちを模索しながら、今後も生田 VC の活動をさらに発展させていきたいと思います。ご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

地域連携と異文化交流を柱として

渡邊 恵太　ボランティア副センター長
（中野担当、総合数理学部准教授）

「国際化」「先端研究」「社会連携」をコンセプトとする中野キャンパス（国際日本学部、総合数理学部）がある一帯は、キリン本社など大手企業や中野区の行政機関、そして帝京平成大学と早稲田大学などの教育機関があり、国際色豊かなだけでなく、地域住民やビジネスパーソンら様々な人々が集い、交流する土地柄である。

その中にあって本学は、キャンパスの 1 階エントランスや学生食堂の一般公開、学部の特性を生かして実施している中国語、韓国語、英語、日本語の語学教室（教師は学生ボランティア）への地域住民の参加、行政機関、警察、消防等と連携した「中野区防災体験デー」、新しい取り組みとしての「防災ワークショップ」の開催など、学内にとどまらない地域連携と異文化交流を推し進めており、当地域の重要な構成員としての地位を着実に築いてきている。

自然災害が続発する近年、地域と連携した防災対策への取組みなど、ボランティア活動への期待はますます高まっている。また新型コロナウイルス感染症による対面での活動が自粛される中でオンラインでの活動への挑戦もはじまった。こうした中、地域連携や異文化交流を柱としさらにオンライン対応など中野ボランティアセンターの様々な活動は、日本社会において現在まさに求められているものと言える。今後とも、一層活動の拡充を図り、学生の成長に寄与するとともに社会からの要請に応えていく所存である。

センターが主催・コーディネートする活動

生田ボランティアセンターオンライン開室 生田

新型コロナ感染拡大防止のための緊急事態宣言が４月上旬に発令され、授業は５月上旬にオンラインで開始したものの、学生は大学に入構できなくなりました。また対面での課外活動が一切禁止されました。生田ボランティアセンターも学生のコミュニケーションの構築と継続の支援、情報発信の拡大をめざし、オンラインシステムを拡充させました。

まず長引く登学禁止措置にあわせて、Remo アプリを使ったオンラインボランティアセンターを５月より開室しました。

参　加

167 日間開室して参加した学生は 510 名、1 日あたりの参加者は 3.1 名 / 日、冬になるにつれて減少傾向にあった。

期間	日時	参加**	1 日あたり参加**	開室日*
2020 年 5 月 18 日(月)～6 月 7 日(日)	月・水 12：30 ～ 13：30	61(46)	3.1	20
2020 年 6 月 8 日(月)～6 月 30 日(火)	月・火・水 10：30 ～ 15：00			
2020 年 7 月 1 日(水)～10 月 31 日(土)	月・火・水・木・金 12：30 ～ 13：30 夏季休業 10：00 ～ 12：00	295(182)	4.5	66
2020 年 11 月 1 日(日)～2021 年 3 月 31 日(水)	月・火・水・木・金* 12：30 ～ 13：30 春季休業 11：00 ～ 12：00	154(87)	1.9	81
合　計		510(315)	3.1	167

*同じ Remo アプリで行われた４キャンパス合同オンラインボランティアセンター開室日を含む

**オンライン生田ボランティアセンターで行われた各種イベント(生田 DE 学生交流会、上級生学生ラウンジボランティア、および４キャンパス合同ボランティアセンター)への参加者を含む。カッコ内はそれらを除いた値

方　法

オンライン(Remo アプリによる開室)

※大学の学生ラウンジを模したレイアウトで、19 テーブル配置した宴会場のようなオンライン空間。その中に来室者は小さなアイコンで表示され、宴会場のどこに人が来ているか、見渡すことができる。

※１テーブル４～６人まで着席でき、テーブルごとに会話できる。テーブル間の移動もダブルクリックで自由にできる。

Remo プラス面

他のテーブルに誰がいるか、アイコンで見渡せるので、ふらっと立ち寄ったときたまたま居合わせた友人に気づいて交流が可能。１テーブルに４～６人が着席できるので、グループミーティングが可能。

Remo マイナス面

Remo の知名度が低く、入る際にアカウント登録が必要などステップが多いため、入室しようと思っても躊躇して諦める人がいると想像された。この頃はまだ使用環境が限定され（PC ＋ブラウザ Google Chrome のみ、その後拡張)、出先でスマートフォンからの気軽な入室ができなかった。

▲ Remo による生田ボランティアセンター

カメラオンの課題

当初、学生の確認のためにカメラオンでの参加を呼びかけていたが、カメラオフで参加したい学生が一定数いることがわかった。後で判ったことは、オンライン授業は原則カメラオフでの受講で、学生はそれに慣れていた。

オンラインボランティアセンターをカメラオフでもよいことにするか、それとも、あらかじめカメラオンを周知して嫌な人は来室しないでもらうかは、判断がためらわれた。カメラオンのほうが学生間の交流が進むことはたしかである。全員がカメラオン、または全員がカメラオフの状態だと安定するが、カメラオンとカメラオフの学生が混在すると学生間に微妙な状況が生まれどちらも居心地が悪くなるという状況が発生した。Remo の会話は Zoom の全体ルームよりはブレイクアウトルームに近い環境であり、少人数が維持されるので比較的カメラオンになりやすい状況ではあるが、難しい状況も多々あった。

内　容　ボランティアをしてみたい／どんなボランティアがあるか／勉強のしかたが分からず困っている 特にレポート／友達をつくりたい／サークルの入り方を知りたい／長期休みの計画を立てたい

駿河台ボランティアセンターオンライン開室 駿河台

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティアセンターが閉室となったことから、オンラインで開室を行いました。ボランティア活動の相談に加えて、「ボランティア」をキーワードに交流できる場とし、Tree に関する質問も受け付けられるよう、駿河台ボランティアセンター直属の学生団体「Tree」の学生も参加しました。

日　時　2020 年 6 月 9 日(火)、6 月 17 日～7 月 29 日　水曜 12：45 ～ 13：15　全 8 日
方　法　Zoom
参　加　12 名
内　容　ボランティアに関する相談・雑談など

和泉ボランティアセンター　オンライン開室 和泉

対面での通常開室が叶わない状況が続いていましたが、オンラインでできるボランティアについての相談はもちろん、学生同士の交流や、誰かと話して気分転換できる場に少しでもなれば、とオンラインで開室を行いました。

日　時　2020 年 6 月～7 月　月曜・木曜 12：40 ～ 13：20　全 7 日
方　法　Zoom
参　加　7 名
内　容　ボランティアに興味があるがどう参加したらよいか／どんなサークルがあるか／近況報告・雑談など

4キャンパス合同オンライン開室 駿河台 和泉 生田 中野

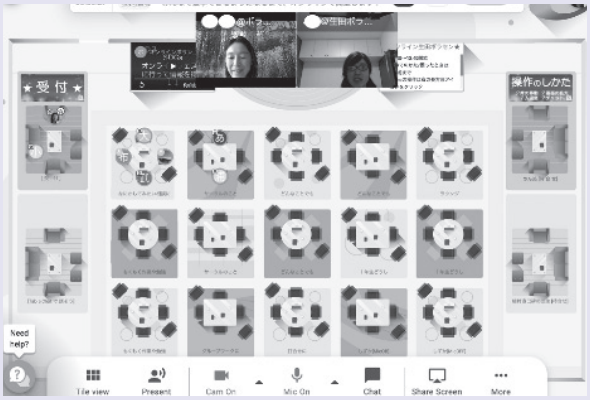
秋学期後半から、4キャンパスボランティアセンターによる合同のオンライン開室を行いました。予約・申込不要で気軽に来室ができ、ボランティアに関することはもちろん、キャンパスや学部を超えた明大生同士の交流を目的に開室を行いました。オンライン開室が定着するにつれ、参加する学生も固定化され、学生同士の交流も多く生まれました。また、徐々に「カメラオン」の学生が増え、互いの憩いの場にもなりました。

日　時　2020年11月19日(木)～2021年3月25日(木)　全15日
木曜 12：30 ～ 14：30

方　法　Remo

参　加

秋学期前半　全5日 2020年11月19日～12月17日	26名
秋学期後半　全3日 2021年1月14日～1月28日	15名
春季休業　全7日 2021年2月4日～3月25日	38名
計	79名



▲オンライン開室の様子

内　容
- オンラインでできるボランティア情報を知りたい
- 学生同士の交流をしたい
- ボランティアサークルの幹部の悩み相談
- ボランティアサークル同士の交流
- 大学生活におけるサークル加入やゼミ等についての相談
- なんとなくふらっと参加した
- 職員との会話を楽しみたい　等

協　力
- 日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）

公式 Instagram の活用 生田

コロナ禍で学生とコミュニケーションをはかるため、公式 Instagram でより一層積極的な発信に努めました。

○閉室、開室、オンライン開室と感染状況と大学の指針によって変わっていくボランティアセンターの開室情報をカレンダー形式でこまめに更新した。

○ボランティアセンター主催のイベントの告知をポスターとともに載せて、広報活動の一つとした。

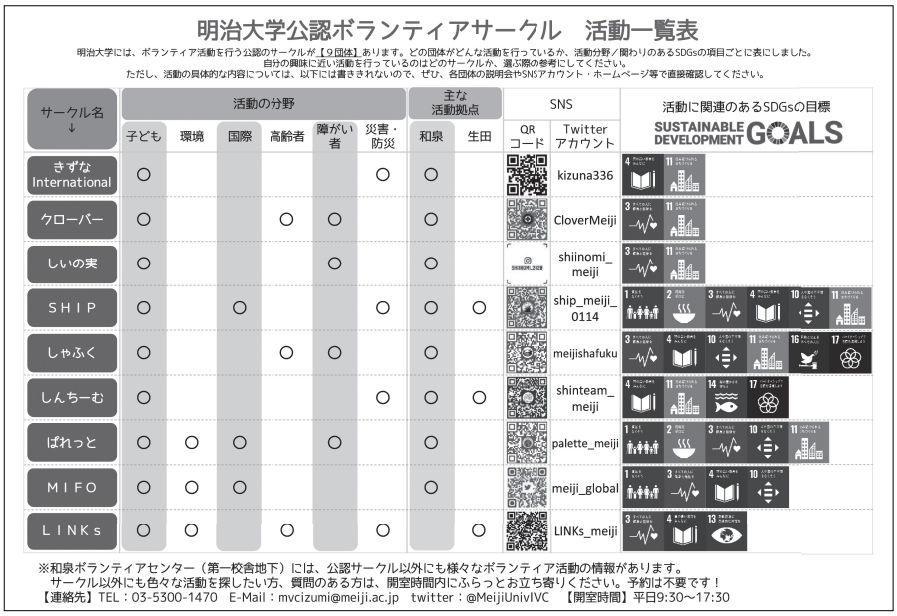
○生田キャンパスの学生のボランティア活動の体験談を写真と併せて掲載した。カラー写真でより具体的に活動のようすを伝え、投稿を１日１回に控え、少しずつ投稿した。

▲公式 Instagram

ボランティアサークル活動分野・SDGs 一覧表の作成 和泉

文系学部１～２年生が通う和泉キャンパスは、サークル活動が活発で、ボランティア活動を行うサークルが９つあります。普段はそれぞれが主体的に活動を行っていますが、適宜、ボランティアセンターと連携したり、合同で報告会・イベント等を行って交流したりしています。

その一環として、2019 年度まで毎年、９サークルの活動を集約したパンフレット「ぼらぱん」を作成し、新入生を中心に配布してきました。しかし、SNS を活用した広報などが活発になる中で、配布しきれない残部が多いなどの課題もありました。そこでパンフレットを作成・印刷する意味について検討を重ねた結果、2020 年度分より、パンフレット自体の作成は見合わせ、各団体の違いや特徴が最低限分かるよう、A4 サイズ１枚程度の活動分野の一覧表のみを都度印刷して活用してみることになりました。特に 2020 年度は、対面でのイベントがなく配布の機会が少なくなってしまったことから、かえって無駄がなくよかったと感じています。今後も、活動状況に応じた情報発信の方法や、学生同士のつながりづくりの機会を検討していきます。



明治大学公認ボランティアサークル　活動一覧表

明治大学には、ボランティア活動を行う公認のサークルが【９団体】あります。どの団体がどんな活動を行っているか、活動分野／関わりのあるSDGsの項目ごとに表にしました。
自分の興味に近い活動を行っているのはどのサークルか、選ぶ際の参考にしてください。
ただし、活動の具体的な内容については、以下には書ききれないので、ぜひ、各団体の説明会やSNSアカウント・ホームページ等で直接確認してください。

サークル名 ↓	活動の分野						主な活動拠点		SNS		活動に関連のあるSDGsの目標
	子ども	環境	国際	高齢者	障がい者	災害・防災	和泉	生田	QRコード	Twitterアカウント	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
きずな International	○					○	○			kizuna336	
クローバー	○			○	○		○			CloverMeiji	
しいの実	○				○		○			shiinomi_meiji	
SHIP	○		○			○	○	○		ship_meiji_0114	
しゃふく	○			○	○		○			meijishafuku	
しんちーむ	○					○	○	○		shinteam_meiji	
ぱれっと	○	○	○		○		○			palette_meiji	
MIFO	○	○	○				○			meiji_global	
LINKs	○	○		○		○		○		LINKs_meiji	

※和泉ボランティアセンター（第一校舎地下）には、公認サークル以外にも様々なボランティア活動の情報があります。
サークル以外にも色々な活動を探したい方、質問のある方は、開室時間内にふらっとお立ち寄りください。予約は不要です！
【連絡先】TEL：03-5300-1470　E-Mail：mvcizumi@meiji.ac.jp　twitter：@MeijiUnivIVC　【開室時間】平日9:30～17:30

▲完成した一覧表

明大生ボランティア丸ごと紹介タイム・オンライン版 和泉

４月には、新生活をきっかけに「ボランティアを始めてみたい」「どんなボランティアがあるのだろう」そんな思いを抱く学生がたくさんいます。しかし、新しいことばかりに直面する新入生にとっては、自分に合ったサークル活動を多数の中から選び分けることは容易ではありません。そこで毎年、ボランティアに興味のある新入生を対象に、明大生の行うボランティア活動やサークル団体を、活動内容や形態を問わず一度に紹介する合同説明会を開催しています。

ところが、2020 年度は緊急事態宣言の発令に伴い、授業開始延期・オンライン授業などの措置が取られました。そこで急きょ、各ボランティアサークル所属の学生と検討した結果、「トーク編」と「プレゼン編」の二つをオンラインで実施することにしました。「トーク編」では、各サークルの代表者がサークルの特長や活動内容について対話をし、それぞれのサークルの違いや魅力をアピールしました。「プレゼン編」では、各サークル 10 分間のスライドで活動紹介を行いました。

▲イベントのチラシ

例年よりも開催が遅くなり新歓も終了後だったため、入部につながった例は多くはありませんでしたが、各サークルから SNS のフォローや LINE グループの参加が増えたという声がありました。何より、在校生のメンバー同士が、打合せや当日のトークを経て、サークルに入ったきっかけや活動への思いを改めて聞き、知り合う機会になり、その後もオンライン上で情報交換を続けたり、一緒に企画を行ったりする土台ができたと感じています。

日　時　①トーク編 2020 年 6 月 1 日(月)・2 日(火)12：35 ～ 13：25
②プレゼン編 2020 年 6 月 8 日(月)～ 10 日(水)12：35 ～ 13：25

方　法　Zoom

参　加　143 名(うち企画メンバー 42 名)

内　容　①トーク編：お昼を食べつつ気軽に聞けるよう、職員×各サークルメンバーのトークを実施
②プレゼン編：各サークルの活動内容を知ることができるよう、10 分ずつのプレゼンを実施

明大生オンライントーク「ボランティアと学生生活」動画配信 和泉

コロナウイルスの感染防止のため、例年実施していたボランティア活動に関する説明会や関連イベントも中止を余儀なくされる中、こんな中でもボランティアについて発信したい、勉強との両立や費用のこと、活動の意義などよく寄せられる質問に答えたい、との思いから企画しました。これまでサークルや個人として様々な活動に参加していた学生に声をかけ、ボランティアについての対談をオンラインで収録・編集し、学内のウェブサイトを通じ新入生に見てもらえるようにしました。2021年3月末までに約300回の再生がありました。

日　時　2020年6月に収録し、7月に明大生のための情報サイト「MEIJINOW」にて公開

参　加　学生5名、職員1名

内容とURL

①前編（約15分）
それぞれのボランティア活動について／勉強との両立／活動にかかる費用／参加のきっかけ／よかったこと
https://meijinow.jp/meidainews/information/51402

▲前編

②後編（約15分）
大変だったこと／ボランティアって自己満足？／ボランティアセンターって？／ボランティアセンターの活動について
https://meijinow.jp/meidainews/information/51424

▲後編

▲オンラインでの収録風景

生田 DE 学生交流会 生田

晴れて大学生になったのに、緊急事態宣言で入学式が行われず、対面ガイダンスが行われず、登学の機会を失ったままの新１年生。５月からオンラインでの授業が始まりましたが、対面でないためなかなか友達を作る機会がありません。そこで友達作りのキッカケになればと、昼休みの時間帯にオンライン上で新１年生対象の交流会を開催しました。

必修授業のオンライン上で名前だけ見たことのある学生同士が初めて会話をかわしたり、同じ学科の学生同士が知り合ってライン交換するなど、同級生と打ち解ける場となりました。

▲ Instagram ポスター

日　時　2020 年６月３日(水)～５日(金)12：30 ～ 13：30
場　所　オンライン生田ボランティアセンター
方　法　Remo
対　象　新１年生
同じ学科の人と出会えるように各日目安の学科を設けたが、別の日でも大丈夫とした。
６月３日(水)農学科、生命科学科、農芸化学科、食料環境政策学科
６月４日(木)情報科学科、電気電子生命学科、応用化学科、数学科
６月５日(金)機械工学科、機械情報工学科、建築学科、物理学科
参　加　15 名

上級生によるオンライン学生ラウンジ 生田

新１年生は４月初旬の対面サークル新歓も中止となりました。５月の連休にオンラインのサークル新歓が行われましたが、生田では新歓に参加できずサークルにも入会できなかった新１年生が大半で、先輩たちと知り合う機会を持てないまま春学期が終わろうとしていました。そこで、先輩たちとオンライン上で交流することで、新１年生が学生生活をイメージする機会をもてたら良いなと思い、この企画を行いました。

先に開室をはじめていたオンライン・生田ボランティアセンターの一角に、おしゃべりしたり勉強したり自由に過ごせる空間としてオンライン学生ラウンジを開設し、そこで自習などしながら、気楽に学部の１年生と交流してくれる“上級生ボランティア”を募集しました。不安な１年生の力になりたいと、多くの上級生が参加しました。

日　時　2020 年７月 13 日(月)～ 31 日(金)、８月３日(月)～４日(火)
８月６日(木)～７日(金)、８月 17 日(月)～ 18 日(火)
12：30 ～ 13：30
場　所　オンライン生田ボランティアセンター
方　法　Remo
内　容　上級生がオンライン上で、訪れた１年生の質問に丁寧に答える。生田キャンパスに一度も来たことが無い１年生にキャンパスの雰囲気を伝える。一人で行き詰っている１年生の話をきいて、励ます。
※できるだけ同じ学科の上級生と１年生が交流できるよう配慮
参　加　上級生　113 名(登録 50 名)　１年生　54 名

アルバイトしている時間はあるか、どんなアルバイトをしているか、GPAはどれくらいとったら安心か、研究室やゼミはどうやって決めるのか、数学の自習にオススメの本はあるか、興味を持っていたサークルについて知りたい、勉強とサークルとアルバイトとの両立はできるか、1年生同士で話したい、課題の相談ができる友だちがほしい、実験はどんなふうにするのか、研究室はどんな感じか、大学のテストはどんな感じなのか、アルバイトの探し方、アルバイトを週何回入れているか、サークルは現状どうなっているのか、夏休みはどうなるのか、1年生でサークルに入っている人がいるのか、1年生で大学に友だちがいる人がいるのか、第2外国語の勉強の仕方、学園祭は行われるのか、授業の課題を効率よくこなすにはどうすればいいか、サークル情報はどうやって集めたらよいか、サークルに複数入ることは可能なのか、大学院進学について知りたい、自動車免許はいつ頃とったか、就活はいつごろから意識したらいいか、和泉のサークルに入ったら大変か、ボラセンはどう活用したらいいのか、夏休みは何をしたらいいか、サークルは今入るべきか・秋からでいいか、取得したほうがいい資格、電車の混雑具合、わからないことを相談するにはどうしたらいいのか

▲オンライン学生ラウンジの様子

理工学部3年

私は、大学生活に期待がなかった。なぜなら、大好きな高校とも友達とも離れ離れになってしまうし、これから難しい勉強をするのに楽しいはずがないと思ったからである。入学直後、急性の胃腸炎に苦しみながら入った、初めての学科のガイダンスの部屋は今でも覚えている。女子高育ちの私は、その男の人の人数の多さに慄いた。人見知りしないが、ほとんど誰とも話さずに家に帰った。友達は欲しいし、誰かに何かを話したいが、何をどう話せばいいのか分からなかった。ものすごく苦労した。

だから、3年生になった今、私はこのボランティアをすることを決めた。多かれ少なかれ、私と同じ思いで入学してくる方もいるだろう。少しでも話を聞いて、力になれないかと思った。オンライン授業になり、一人でいることが多くなってしまった。だから、この活動によって、1年生を励まし、また、一緒に話しながら楽しむことができることが一番の魅力であると思う。だが、リモートであるが故、説明していることが本当に理解してもらえているのかどうか分からないし、学科の魅力など画面を通してでは、伝わりきらないこともあると思う。そこで、諦めるのではなく、話に来てくれた1年生に、無駄な時間だったと思わせるのではなく、何か1つでも得て、今後の生活に役立ててほしいと思う。

農学部2年

私は昨年ボランティアセンターを、様々な方々と話すことを通して関係を築いたり、ボランティアのことなどをはじめ多くの情報を得る場所として利用してきました。そしてボランティアセンターに関することをより1年生に周知したいという考えで今回の企画に参加しました。また昨今の情勢によって今年度は例年通り大学に通う大学生活を送ることが困難であり1年生にとっては大学に入学したという感覚が沸きにくいのではないかと思っており、少しでも大学の様子を知ってもらいたいとも考えていました。

▲テーブルごとに会話

今回1年生と話すことで実際の状況について知ることができ、また何が今必要とされているのかについては他の参加者との意見交換を通して分かりました。自分自身もこのような経験をしたのは今回が初めてであり参加を通してオンラインでどのように他者と意見を交換していくのかを知る良い機会にもなりました。

一方ではじめての試みであるため1年生の参加が当初は少なかったり、1年生の求めている内容とは異なっていたりと上手くいかないことも多々ありました。しかし回を重ねるごとに学科ごとに曜日を分けてより身近な話題を話すことができるようにするなどより良いものになったと思いました。

ひとりで考えない恋愛学 駿河台

オンライン授業の影響で友だちと直接話す機会が減り、恋愛や性についてひとりで考え込んでいる学生のために、前年度まで学生の自主企画として開催していた「アリスと考える恋愛学」を、2020 年度は Zoom で開催しました。前年度に引き続き学生スタッフが中心となり、担当教員のサポートのもと実施しました。

▲ポスター

日　時 2020 年 6 月 15 日(月)～ 2021 年 3 月 9 日(火)
12：30 ～ 13：30　全 13 回

方　法 Zoom

内　容 運営スタッフの学生が中心となり、性や恋愛のテーマを決め、オンラインによる勉強・意見交換の場の企画・運営を行った。

コーディネーター 平山 満紀(文学部准教授、副センター長)
パッハー，アリス ルイーゼ(文学部助教)

日程	テーマ	参加
2020 年 6 月 15 日(月)	「付き合う」ことについてかんがえてみよう	44 名
2020 年 6 月 22 日(月)		27 名
2020 年 6 月 29 日(月)		14 名
2020 年 7 月 13 日(月)	「好き」ってなんだろう？ ～好きのカタチあれこれ～	31 名
2020 年 7 月 20 日(月)		26 名
2020 年 8 月 31 日(月)	好きなタイプは何ですか ～自分の恋愛観と向き合おう～	50 名
2020 年 9 月 2 日(水)		32 名
2020 年 11 月 16 日(月)	なんでこうなの？ ～男女あれこれ～	46 名
2020 年 11 月 23 日(月)		27 名
2020 年 12 月 14 日(月)	一人しか好きになっちゃいけないの？ ～浮気ってなんだろう？～	17 名
2020 年 12 月 22 日(火)		36 名
2021 年 1 月 18 日(月)	国際恋愛あれこれ！ ～文化の違う人との恋愛を考える～	27 名
2021 年 3 月 9 日(火)	Ｙｅｓ、Ｎｏって聞いてる？伝えてる？ ～性的同意について知ろう～	16 名

文学部 3 年　依田 真

「ひとりで考えない恋愛学」は、「アリスと考える恋愛学」から名称を変え、学生スタッフが運営の主体となり、恋愛に関する様々なテーマを参加者の方々とズームミーティングにて掘り下げてきました。テーマは大学生が異性に感じる疑問から、多様な性関係についてまで、幅広く設定しています。例えば「国際恋愛の悩み」のテーマでは、留学生の参加者の方を中心に、実際に国際恋愛をしたことのある方々にエピソードを話して頂きながら、文化や宗教の違いを認めたうえで関係を結ぶ難しさ、その中で深いコミュニケーションが取れたときの嬉しさを参加者一同で知ることができ、新鮮な経験を得られました。コロナで恋愛についての悩みや不安を抱え込みやすい時期である中、学生同士で意見を共有できる場を作ることができ、非常に良かったと思います。

ボランティアサークル情報交換会 和泉

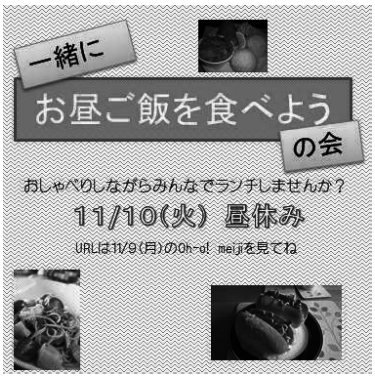
秋学期になり、課外活動でも一部対面が解禁されることになりました。一方で、受入先の都合により活動が実施できないサークルも多くありました。そんな中、例年であれば後輩への代がわりなどの時期が近付いていることを受けて、サークルのメンバーに声がけをして開催しました。1年生を交えた活動の近況や、引き継ぎをどうするかなど、日ごとにテーマを決めて情報交換を行いました。

日　時　2020年10月29日(木)、11月10日(火)・24日(火)
12：30～13：30
方　法　Zoom・Remo
参　加　25名

お昼ご飯を食べようの会 生田

秋学期になりましたが、オンライン授業が続き、部屋で一人っきり、誰ともしゃべらず1日を過ごしている学生が少なからずいるのではないか、という心配からオンライン上の交流の場を開きました。

生田キャンパスの学生は、2限、3限に授業が詰まっていることも多く、昼休みにご飯を食べてから交流するのでは時間が短いため、あえてみんなでご飯を食べながら交流することにしました。自分のお昼ごはんを見せたり、簡単にできる料理の話をしながら和やかな時間を過ごしました。



▲Instagram ポスター

日　時　2020年11月10日(火)・17日(火)12：30～13：30
場　所　オンライン生田ボランティアセンター
方　法　Remo
参　加　3名

ボラトーーク 生田

大学には、色々なことを学び、活動し、考えたり、試している学生がたくさんいます。そんな学生たちによる、プレゼンや交流の恒例トークイベントです。昼休みに、聴きたい人は申込みなしで直接センターに来室してトークを聴くことができ、トーク後は、参加者が感じたこと、考えたこと、質問などを付箋に書いて、発表者にフィードバックすることが恒例になっていました。

ところが 2020 年度は、コロナ禍でセンターが閉室になり、このトークイベントも開催できなくなりました。

先行していたオンライン・ボランティアセンターの開室が軌道に乗ってきた頃、ボラトーークのオンライン開催を考え始めました。この時期ならではのテーマを選び、オンラインだからこそ可能なことをと、ふだんは時間や場所の制約があり登壇できない社会人 OBOG にも声を掛けることにしました。学生がオンラインで参加しやすい条件を知りたいと考え、申込み方法、開催アプリ、開催方法、開催時間などについても、複数検討し、いくつか実験的に行いました。

日　時　2020 年 12 月 16 日(水)・17 日(木)・19 日(土)　昼／夜　1 時間　全 4 回

テーマ　大学院進学

内　容　現役の大学院生・社会人 OBOG・大学 4 年生が日替わりで大学院進学についてトークを行う。大学 1 ～ 3 年生はその話を聴いて質問もできる。

(1)進学は今の自分にどう役立っているか
(2)大学院からの就職について　(3)大学院や研究室の選択
(4)お金のこと　(5)進学をきめた 時期や“決め手”
(6)進学のためにして効果的だったこと、成功したスケジュール
(7)コロナ禍、今の研究や仕事がどうなっているかの最新情報　など

方　法　Zoom、oVice

＊本トークは Zoom　3 ～ 4 人のブレイクアウトセッションを 3 クール
＊トーク後の交流に①②の回は oVice、③④の回は Zoom を 30 分程度開放
＊ oVice…オンライン画面上で自分のアイコンを自由に動かし、近くの人と自由に会話できるツール。ビデオ会話も可能。

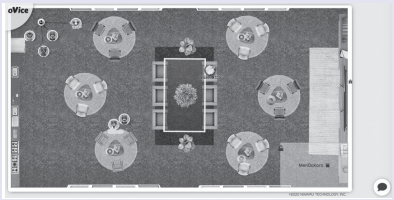
参　加　77 名(担当を含む)

＊リスナーは学部 1 ～ 3 年生で、事前申込制。63 名申込。開催 URL を伝え、参加予定回を聞いて参加数の目安とした。申込者の参加率は 49%、昼の時間帯のほうが夜の時間帯よりも高かった。

日時	タイトル	担当	参加
① 12 月 16 日(水) 12：30 ～ 13：30	大学院進学のメリット＆デメリット ～大学院生や社会人 OBOG の話をきいてみよう！	大学院生 5 名、社会人 OBOG 2 名	26 名
② 12 月 16 日(水) 20：00 ～ 21：00		大学院生 8 名、大学 4 年 2 名、 社会人 OBOG 2 名	19 名
③ 12 月 17 日(木) 20：00 ～ 21：00		大学院生 4 名、社会人 OBOG 2 名	15 名
④ 12 月 19 日(土) 11：00 ～ 12：00		大学院生 1 名、社会人 OBOG 5 名	17 名

▲ある夜の回のタイムライン／開始前に画面共有でお知らせ

▲ある昼の回の登壇者／開始前に画面共有でお知らせ



▲トーク後 oVice で交流

オンラインボランティアの魅力・体験談について語ります！ 駿河台

日　時 2020 年 12 月 16 日(水)12：30 ～ 13：30

方　法 Zoom

参　加 16 名

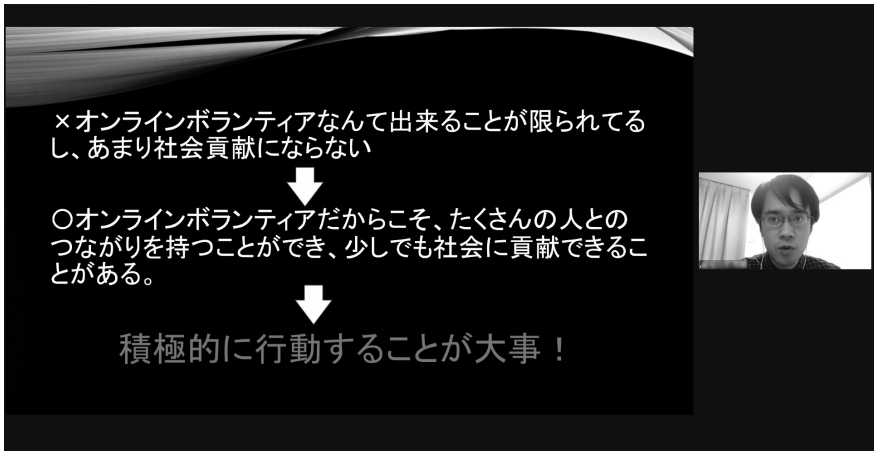
内　容

教育支援と災害復興支援のオンラインボランティアを経験した学生から、その体験を通して感じたオンラインボランティアの魅力・体験談を語ってもらうイベントを Zoom で開催した。教育支援と災害復興支援における具体的な取り組みの紹介や、ボランティアの役割についての説明が行われた。

・教育支援ボランティア体験(講話)
・災害・復興支援ボランティア体験(講話)
・質疑応答・雑談交流タイム

経営学部 4 年　佐々木 亮輔

1 年生を中心に 16 名の学生に参加していただき、ボランティアのあり方としてオンラインボランティアでも何かできることがあると感じていただけたと思います。これをきっかけに一人でも多くの人がオンラインボランティアに魅力を感じ、活動してくれることを願っています。



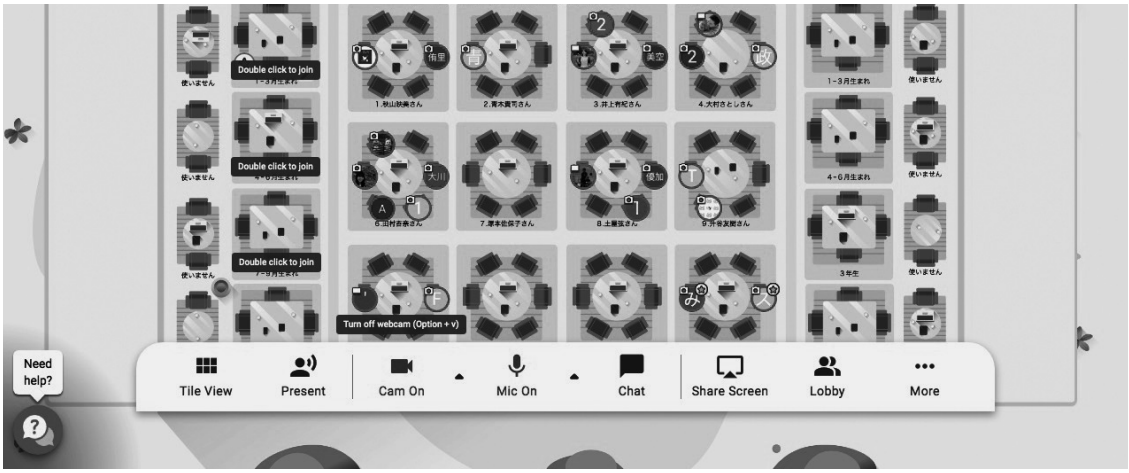
▲佐々木さんが説明している様子

・ボランティアに参加したくても勇気が出なかったのですが、まずは参加してみることが大事なのだなと思いました。
・ボランティアと言っても様々な分野があり、個々について漠然とした活動内容しか理解できていなかったのですが、今回佐々木さんのお話はすごくためになりました。

卒業生と話そう！キャリアと学生時代のボランティア 和泉

オンラインでの授業や活動にも慣れてきた一方、「オンライン疲れ」という言葉も聞かれるようになりました。せっかくならオンラインの強みを生かした、オンラインだからこそできることがないか、卒業後の進路を見据えて、これからの新学期や大学生活を少しでも前向きに考えるきっかけにしてほしい、との思いから企画しました。

ゲストには、大学時代にボランティア活動を行い、現在様々な仕事に従事する卒業生に協力してもらいました。オンラインの良さを生かし、新潟や福島、広島等様々な地域で働く卒業生が一堂に会し、学生時代のことはもちろん、振り返ってみてやり残したことや、現在の仕事のこと、コロナ禍での働き方のことなど、テーブルごとに様々な話を展開できました。当然ながら、卒業生が過ごした当時の大学生活と、現在のコロナ禍の状況とは大きく異なりますが、交流する中で在校生の表情が少しずつ明るくなったり、春からの目標を言葉にしていったりする姿が印象的でした。



▲テーブルごとに卒業生と個別交流

日時・内容

① 2021 年 1 月 16 日(土)10：00 ～ 12：30
- キーノート・スピーチ「キャリアとボランティア」
  (秋山 映美さん・株式会社クレアン　コンサルタント)
- 在学中にボランティア活動を行っていた本学卒業生(９名)と在学生との個別交流

② 2021 年 2 月 27 日(土)13：30 ～ 16：30
- テーマ(やりたいことの見つけ方・大学時代やっておくといいこと・就職活動など)に分かれ、本学卒業生(５名)と在学生との交流

方　法　Remo

参　加　①学生 11 名、卒業生 9 名、職員 3 名
②学生 24 名、卒業生 5 名、職員 2 名

協　力　日本財団学生ボランティアセンター Gakuvo

３大学オンライン交流会 駿河台 和泉 生田 中野
学生が考える環境ボランティアの未来
（関西・法政・明治３大学連携事業）

関西大学・法政大学・明治大学のボランティア団体やサークルに所属する学生が参加し、「大学生が考える環境ボランティアの未来」をテーマに３日間オンライン上で議論を交わしました。

日時	テーマ	参加
2020年8月26日（水） 13：00～15：00	環境問題から考える大学生ができること ～ボランティアの道をリーダーが切り拓く～	６名
2020年9月2日（水） 13：00～14：40	日本一の山“富士山”と日本最大の湖“琵琶湖”の環境問題について	４名
2020年9月9日（水） 13：00～14：40	大学生が考える環境ボランティアの未来 ～きっと答えは一つじゃない～	４名

方　法　Zoom

内　容

①１日目は環境問題に取り組む学生ボランティアの活動紹介と、ボランティアグループにおけるリーダーシップの重要性について学んだ。

②２日目は日本一の山“富士山”と日本最大の湖“琵琶湖”の環境問題と対策について議論した。

③３日目は各大学のエコ活動紹介と、今考えたい環境問題について議論・発表を行なった。

主　催　関西大学ボランティアセンター

▲ポスター

情報コミュニケーション学部３年　矢野 寛子

オンライン開催ではあったが、他大学との交流を通して様々なボランティア活動や環境問題への取り組みについて学ぶことができた。富士山・琵琶湖の環境問題については、法政大学・関西大学が過去に実施した取り組みをもとに議論したことで、リアルな現状を知った上での活動案や対策などを考えることができ非常に勉強になった。最終日はプラスチック問題や3R活動、エコバック運動など、私たち大学生の視点から考える環境問題・ボランティア活動について具体的な提案を混ぜながら熱い議論を交わすことができた。異なる経験をしてきた学生同士が様々な意見を交換し、真剣に議論することで、環境問題やボランティア活動に対しての意識や考えをより深めることができた。また、議論した取り組みや対策を実際に行うことが何よりも重要であると改めて感じた。日々の生活の中で自分にできることから始め、世の中の状況が落ち着いたら積極的にボランティア活動等に参加したいと思った。

３大学オンライン活動報告会 駿河台 和泉 生田 中野 コロナ禍で駆け抜けた 2020（関西・法政・明治３大学連携事業）

関西大学・法政大学・明治大学のボランティア活動をしている学生がオンラインで集まり、今年のボランティア活動についての総括報告を行いました。

交流会前に、主催の関西大学からエコバックやサボテンの種が配られるなど、環境保護やSDGs の意識を高める工夫がありました。対面で会うことができないという状況でしたが、LINE のオープンチャット機能なども使用し、コミュニケーション方法を模索しました。

環境保護や国際交流、地域交流など様々な分野のボランティア団体及び、個人で活動している学生も参加しました。学生だけではなく各大学のボランティア活動を支援する教職員なども参加し、様々な視点からの幅広い意見や考え方が提示されました。

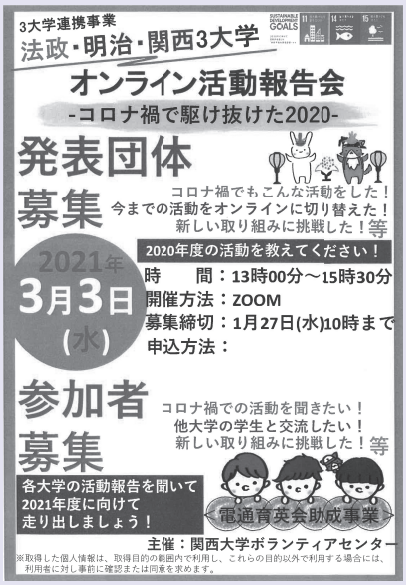
関西大学の学生の司会進行で終始和やかな雰囲気の中の交流会となりました。

日　時　2021 年３月３日(水)13：00 ～ 15：30

方　法　Zoom

参　加　明大生 10 名、職員５名

目　的　コロナ禍で今までとは異なるボランティア活動を実施している学生の活動報告の場とし、この機会に新たな知見やアイディアを得て、2021 年度に向けて前向きな気持ちでボランティア活動に取り組めるような場とすることを目的に実施する。



▲ポスター

内　容

第１部の活動報告では、各大学から計５団体が 2020 年度の活動報告をし、その後、感想や質問をグループごとに話し合った。第２部の交流会では、参加者全員が「2021 年度に向けて」という大きなテーマについて意見を交わし、全体ディスカッションの内容や各所属団体の状況についてグループごとに話し合った。

所属している団体の活動だけではなく、他の団体が 2020 年度コロナ禍でどのように活動していたかを聞くことで、2021 年度に向けて活動に活かせる視点を得る機会とした。

主　催　関西大学ボランティアセンター

発表者の声

総合数理学部３年　大塚 拓海

私は、今まで手話講座などのボランティア活動を個人でしていたが、今回オンライン交流会に参加することで、色々な人の活動の仕方を見ることができ、とても視野が広がった。自分の中に、もっとボランティアの持つ価値を追求していきたいというモチベーションが生まれた。

ありがちな考えだがボランティアはお金がもらえないなどといったように、ネガティブに捉えられることもある。しかしそれは裏を返せば、お金という価値観にとらわれずに活動することができるということでもある。自分が見つけた細やかな価値を積極的に拾いに行くことができる。そう考えればボランティアはとても能動的な可能性を含んでいると思う。

手話の講師でもない私が趣味で始めた手話カフェは、様々な人と手話を通して交流することができる場になり、自分自身の手話の学びにもなった。きっかけは思いつきでもいいし、自分が見つけた些細な困りごとからでもいい。今その場でできることから始める、という姿勢はコロナ禍でも変わらない。むしろ、コロナ禍だからできることもあるのだと思っている。

何よりも Zoom 上で三大学の学生・スタッフと集まり充実した体験をすることができ、オンラインでのコミュニケーションにとても期待が持てた。遠く離れた場所からアクセスできるので、様々な人が

集まり、意見を交わすのにとても向いていると感じている。
　交流会をきっかけに、オンラインでのボランティア活動にもっと力を入れたいと思った。これからも様々な人と出会い、どんなことができるのか、新しいボランティアのあり方を模索していきたい。

農学部２年
　今回、法政大学、関西大学、明治大学での合同報告会で最も得られたことは、“楽しさ”⇒“やる気”⇒“活動”ということの再認識です。私たちのボランティアサークルでもコロナ禍の中でできる活動を進めてきました。しかし、活動を募集してもついてきてくれる人は多くはなく、また大学に入学してきた後輩の参加はハードルがあるように感じていました。そして、このことはどの大学も同じでした。コロナ禍の中で“どのように人を引き込むか”を話すことができ、上記のようなことを再認識できました。まずは、楽しさを感じることをきっかけとして人を引き込んでいくことを考え、ボランティア活動をより多くの人に知ってもらい、そして人生の貴重な経験にしていただきたいです。

参加者の声

理工学部４年　池 拓光
　この報告会は、コロナ禍をきっかけに今まで交流していなかった学生と交流することができたことがよかったです。特に関西の大学とは交流がなく、琵琶湖の活動など今まで関心の薄かった分野の活動について知ることができ私の活動に対する視野を広げることができました。また、私たちが行った対面活動で、感染防止の手続きが大変ではありましたが活動して良かったと感じることもできました。他の活動をしている人からアイデアをもらって、自らの活動に生かせることが多いので、今後もコロナが終息したとしてもリモートの良さを生かして、この報告会が残ってほしいと感じました。他大学との交流の機会がリモートの普及をきっかけにもっと広がれば、活動が思うようにできない学生がそれぞれの課題のヒントを得られる素敵な場になると思います。

韓国語教室 中野

オンラインでの開催となった韓国語教室は、ハングル文字の基本的な読み方や文法、単語などのほかに韓国の文化についても幅広い分野が学べる内容でした。その中で受講生が理解しているかをその都度確認しながら丁寧に進めていく姿が印象的でした。また日本人の講師学生が話す、「どのように韓国語を学んだのか、学ぶコツについて」などのアドバイスにも受講生は興味を持っているようでした。

韓国語教室は参加申し込みが多く、その分受講生のレベルも様々であったため、韓国語能力試験対策や上級者向けの会話練習などを教える教室が人数を限定して追加で開講されました。

＜春学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
月曜クラス①	2020年6月22日(月)～7月27日(月) 17：10～18：10	6回	2名	55名
月曜クラス②	2020年6月29日(月)～7月27日(月) 17：10～18：10	5回	1名	20名
木曜クラス	2020年6月25日(木)～7月23日(木) 15：20～16：20	5回	2名	64名

＜秋学期＞ 開催なし

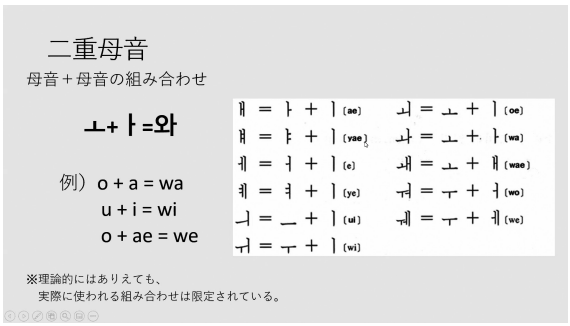
方　法 Zoom

講師学生の声

国際日本学研究科2年　辛 舜夏

昔話やキリスト教の聖書などによると、古代の人間たちは神に挑戦するために天まで届く塔、すなわち、「バベルの塔」を建てようとしました。その様子に怒りを感じた神は、人々の言語を一気に違うように変えて、言葉が通じなくなった人間たちはそのまま塔を建てることを止めて散り去ったという物語がありました。その物語以来、言語の障壁を超えるのは大変難しいことになりました。それでも、私たちはこの教室に集まって、互いの言語を学び、文化を理解して、いわば、「バベルの塔」ではない、「障壁」を超えることについて一歩踏み出した気がしました。特に、受講生の方々の熱心な参与意識に教える側が逆に教わったような気がします。そのため、システム的トラブルや、授業時間設計などの未熟さで受講者側に大変ご迷惑をかけた気持ちで深く反省する一方、感謝がみなぎることも同時にありました。

何よりも、令和2年は、すでに歴史に記録されるほどの新型コロナウイルスという、未曾有の事態を迎え、語学教室のシステムも以前とは違う新システム、つまり、オンラインを通じてのシステムで行われました。アナログで学ぶこととかなり違うこの風景と方式でも構わず、勉強しようとする受講者側の熱意に感心です。でも、このオンラインでもともとのアナログだったら受けることの難しい、中野以外のキャンパスの受講者も参加できるようになって、ある意味「禍を転じて福と為す」という結果も一部あったのではないかと思いました。語学教室ではこういうポジティブな点をもっと活かしたいです。



▲発音練習の様子

日本語教室 中野

オンラインでの開催となった日本語教室ですが、講師募集ではキャンパスを問わず多くの学生が集まりました。しかし、コロナウイルスの流行によって留学生が来日できていないなどといった要因もあり、他教室と比べると受講希望者が思うように集まりませんでした。しかし、その分ひとりひとりの受講生に丁寧にかかわってお互いの国について話しをすることで、日本語での会話の練習をすることができました。

＜春学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
月曜クラス	2020 年 6 月 22 日(月)～7 月 27 日(月) 13：30 ～ 14：10	6 回	7 名	21 名
木曜クラス	2020 年 6 月 24 日(水)～7 月 22 日(水) 12：40 ～ 13：20	5 回	8 名	16 名

＜秋学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
木曜クラス	2020 年 12 月 3 日(木)～12 月 23 日(水) 12：30 ～ 13：30	4 回	4 名	9 名

方　法　Zoom

講師学生の声

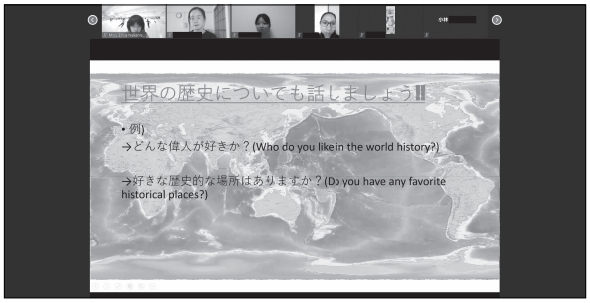
文学部 1 年　中西 珠友

今年明治大学に入学はしたものの、コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン授業となり、なかなか友達ができない…家で授業を受けたくないな…という気持ちでした。そんなとき、中野ボランティアセンター主催の語学教室の案内を Oh-o! Meiji 上で見ました。かねてより外国人の方との交流をすることが好きだったこと、まだ大学に行けていないあるいは日本に行けていない留学生の手助けをしたいと思ったこと、現在教職課程を履修していることから今回の参加を決めました。

今年はオンライン開催であったため、中野キャンパスの学生だけでなく、和泉・駿河台・生田の学生も参加し、春学期は 16 人の講師ボランティアが集まりました。大学 3・4 年生の先輩方が多く、まだ 1 年生の私は少し緊張しましたが、先輩方の優しいフォローのもとでなんとかやっていくことができました。

日本語教室では主に日本語指導というよりも日本文化紹介を行いました。アニメや漫画、観光地など留学生に興味をもってもらいやすいテーマを選び、紹介しました。また紹介後には、Zoom のブレイクアウトセッションを利用して小さなグループに分け、授業のテーマについてあるいは留学生が知りたいことについて話し合いました。時には、留学生の母国のことについても学ぶことができ、私たち講師ボランティアとしてもとてもよい経験となりました。ブレイクアウトセッションではなしが盛り上がった後に、留学生と講師ボランティアで LINE などを交換し、授業後も交流を続けているという方もいます。

また今回参加してくださった留学生は日本語が堪能な方が多く、すでに母国語・英語と習得した上でさらに日本語、そしてさらにもう 1 言語 2 言語と常に努力されている姿にも驚きました。私たち講師ボランティアもこのことを知り、英語だけでなく今あるいは数年前までやっている（た）第二外国語の勉強により一層励もうと思った次第です。この経験は私のみならず全ての講師がとても貴重な経験だったと思っております。



▲春学期　授業内容

中国語教室 中野

オンラインでの開催となった中国語教室は、講師は全員中国・台湾からの留学生となりました。

中国語教室は曜日ごとにテーマを分けて講座を開講しました。対面での語学教室ではなかなか実施できない夜の時間帯（春学期 19：00 ～ 20：00　秋学期 17：20 ～ 18：00）での開催も可能となったこともオンラインならではの利点だったかと思います。

映画を通して中国語を学ぶ講座では、映画に登場したフレーズから文法を学び、その後受講生ひとりひとりに例文を作ってもらい音読、その場で発音修正を行うなど少人数の特性を活かしたきめ細かい講座を行いました。食文化から中国語を学ぶ講座は初歩的な中国語を丁寧な発音で指導しており、Zoom の特性を活かした聴講講座となりました。各教室とも講師学生の用意したパワーポイントがとてもしっかり作りこまれており、中国人留学生の文化交流意欲が溢れる講座となりました。

＜春学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
火曜クラス	2020 年 6 月 23 日（火）～ 7 月 28 日（火） 19：00 ～ 20：00	6 回	2 名	42 名
水曜クラス	2020 年 6 月 24 日（水）～ 7 月 29 日（水） 13：30 ～ 14：50	6 回	4 名	29 名
木曜クラス	2020 年 6 月 25 日（木）～ 7 月 23 日（木） 19：00 ～ 20：00	5 回	3 名	29 名

＜秋学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
水曜クラス	2020 年 12 月 2 日（水）～ 12 月 23 日（水） 17：20 ～ 18：00	4 回	2 名	21 名
木曜クラス	2020 年 12 月 3 日（木）～ 12 月 24 日（木） 12：30 ～ 13：10	4 回	2 名	12 名

方　法　Zoom

講師学生の声

文学部 1 年　平 傑涛

中野ボランティアセンターが設置したおかげで、私は今回の中国語教室の講師を担当でき、とても感謝しています。今年は、新型コロナウイルスにより、学生たちと対面の講座が出来ず、非常に残念でした。しかし、全キャンパスの学生と一緒に中国語を学ぶことができ、良かったです。

地元の多くの方々は日本のアニメや映画などの作品から、日本という国に興味を持ち、日本語を勉強し始める人々が多く、私の場合は、『菊次郎の夏』、『羅生門』のような素敵な映画に出会い、日本語を勉強し始めました。今回の中国語教室は「映画から学ぶ中国語」というテーマで、中国の映画から、中国の歴史、文化や人文など様々な事に触れ、一人でも多くの人が中国語に興味を持ってくれて、嬉しかったです。特に、映画の中の台詞（主に HSK1 級から 2 級のレベルに相当）を取り上げ、皆さんと一緒に単語と文法を勉強した上で、会話の練習、発音の矯正も行いました。自分もこのような体験から、改めて中国語の基礎に触れ、とても楽しかったです。

また、このようなチャンスがあれば、ぜひもう一度中国語教室の講師をしてみたいです。

理工学部 1 年　ソ セイ

12 月の 1 ヶ月間に中国語教室を二つのテーマに分けて実施した。私がいるグループは、「食文化から中国語を学ぶ」をテーマとして、4 回の語学教室を開催した。

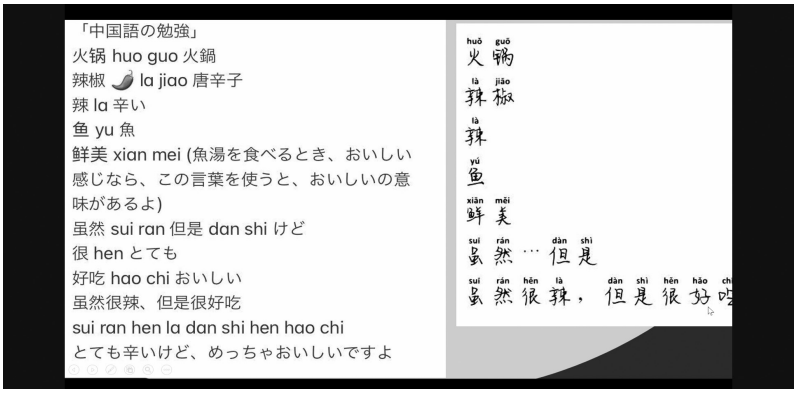
私が担当する 2 回のテーマは、「中国の伝統行事―何を食べるか」と「パンダの故郷―四川省成都」であった。まず、第一回目は中国の春節、端午節、中秋節などの食べ物について紹介した。同時に、中国の伝統行事で食べる食べ物の漢字の読み方や伝統行事で使える祝い言葉を説明した。そして、第三回目の時はパンダの故郷の食べ物を紹介した。四川省は辛い食べ物だけがあるわけではなくて、辛くない

美味しい料理もたくさんあることを伝えた。同時に、パンダの中国語の漢字の読み方と「美味しい」などの中国語の言い方を説明した。

今回のボランティア活動を通して、中国の食文化を日本の方に伝えることができてうれしかった。語学教室に参加した方が今回の語学教室を通して、中国の四川省に辛くない料理もあることを知った後、中国の料理を試してみたいと思ってくれていたらとてもうれしいことと思う。

また、今回の活動を通して、私もいろいろなことが勉強になった。中国語の教室の開催を通して、自らの日本語で発表する能力が鍛えられたと思う。2020 年は特別な 1 年であり、ほぼオンラインで授業を実施したので日本の方と直接交流できるチャンスがなかった。この 1 ヶ月のボランティア活動で、日本語で話すチャンスが増え、とてもよかったと思う。そして、中国語教室で発表する内容を準備する時、いろいろな資料を調べたので、自らの国の文化ももう一層勉強になったと思う。

▲秋学期　映画から学ぶ中国語
発音練習と例文作成の様子



▲秋学期　食文化から学ぶ中国語
中国の食材や使える単語の発音練習の様子

英語教室 中野

オンラインでの開催となった英語教室でしたが、留学生への浸透度があまりなかったためか、講師学生の人数は多く集まりませんでした。しかし、受講生にとっての需要は高いようで、４つの語学教室と比べても早い時点で多くの申し込みがありました。受講生があまりにも多いと、教室を進めていくのが難しいということもあり、急遽開催日を増やして１回の人数を調整するなどの対応を行いました。また、講師学生の希望もあり、英語教室に限り新たな参加者の募集を期間内に終了としました。

内容はゲームなどを織り交ぜながらの会話を中心とした教室で、講師学生からの問いに受講生が英語で答えるなど、積極的にコミュニケーションをとる姿が見られました。

＜春学期＞

クラス	日時	回数	講師学生	参加
水曜クラス	2020 年 6 月 24 日(水)～7 月 29 日(水) 12：40 ～ 13：40	6 回	2 名	55 名
木曜クラス	2020 年 6 月 25 日(木)～7 月 23 日(木) 12：40 ～ 13：40	5 回	2 名	42 名
金曜クラス	2020 年 6 月 26 日(金)～7 月 24 日(金) 12：40 ～ 13：40	5 回	2 名	17 名

＜秋学期＞ 開催なし

方　法 Zoom

講師学生の声

国際日本学部 3 年　ユウ シンディ

オンライン英語語学教室を通して、英語に興味を持つたくさんの生徒に会えました。初めは、実際どのような授業になるのか分からず、緊張していました。何回もミーティングをする内に慣れてきて、毎週楽しかったです。私は、週三回やっていて、三回とも同じミーティングを行っていたので、毎週の 3 回目はもっと余裕をもってできたと思います。大勢の生徒で、みんな様々な英語のレベルで参加して頂いていたので、みんなのレベルに合わせて話すのは難しかったですが、私の英語が聞き取れていたら嬉しいです。将来、英語を教える仕事をすることも考えていたので、いい経験になったと思います。

国際日本学部 3 年　セリーン ホアン

とてもリアルな英語の講師の体験ができて、ありがたく思っています。英語語学教室を通して、日本人の生徒に限らず、他の国の生徒たちにも出会えて、他の国の人たちの生活の仕方や文化を学び、とても興味深かったです。毎週違う企画を立てていたため、レッスンプランを作る自信を持ちました。そして、将来英語の先生になる希望もあるので、意味のある経験になりました。

▲スラングの意味と使い方を学ぶ

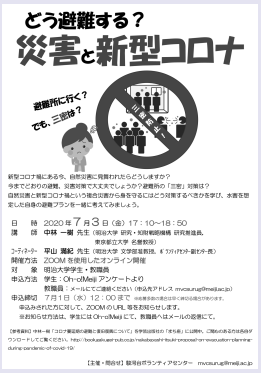
防災ワークショップ 駿河台

2014年度から駿河台キャンパスで実施している企画で、学生や教職員の防災意識を高めることを目的に年１～２回開催しています。今年度は初めて、オンラインで開催しました。

日時	方法	参加
2020年7月3日（金）17：10～18：50	Zoom	34名
2020年12月8日（火）17：10～18：50	Zoom	15名

内　容
- 講義　「どう避難する？災害と新型コロナ　～一人ひとりの備えが、基本です～」
- ワークショップ　マイ避難計画（風水害・地震）の作成とフィードバック

講　師
中林 一樹（明治大学 研究・知財戦略機構 客員研究員、東京都立大学名誉教授）



▲ポスター

参加者の声

- 今日は避難に関する知識をたくさん学びました。災害にあった時、自分はどのような行動をすべきか考え直しました。特にコロナウイルスが流行している今は、万が一ウイルスに感染したら自宅で休養しなければならないので、このような知識が極めて重要です。非常に貴重なお話をありがとうございました。
- 災害関連死の話や避難所と避難場所の話など、自分自身曖昧なままの知識が明文化されていて、大変参考になりました。コロナウイルスは現状心配されることですが、今後他の脅威と災害が生じた際にも立体的に災害を見ることができるように学習したいと思います。

手話カフェ 中野 駿河台

初のオンライン開催ということで、内容や教え方などに関して戸惑いもありましたが、手話サークルに所属している他キャンパスの学生にも協力してもらって一緒に内容を相談し、進め方を考えたり話し合うなどし、無事開催することができました。

これまでの中野キャンパスでの対面開催では、そのためにキャンパスを移動して参加する学生もいましたが、どうしても参加者は中野の学生がほとんどでした。しかし、オンラインで開催したことでこれまで参加できなかった他キャンパスの学生からの参加が増え、対面ではできなかった人数で開催することが出来ました。画面越しでどの程度手話を教えられるのかと、手探りではありましたが、参加者に質問を投げかけたりしながら、手話でコミュニケーションをとり、とてもいい雰囲気の中行われました。

＜春学期＞

日時	回数	講師学生	参加
2020年6月9日(火)～7月28日(火) 13：00～13：25	8回	1名	66名

＜秋学期＞

日時	回数	講師学生	参加
2020年11月9日(月)～12月21日(月) 12：30～13：00	7回	3名	12名

方　法 Zoom

内　容

＜春学期＞手話って何?/手話で挨拶してみよう！/体で表現しよう！/手話でおもてなし/接客の手話と飲み物の名前/手話で自己紹介しよう/家族の表現/手話で質問してみよう/あいづちの手話/会話の練習

＜秋学期＞手話って何？/気持ちを伝える手話/手話で質問してみよう/挨拶の手話/動作を表す手話/ほめる手話/まとめ

講師学生の声

総合数理学部3年　大塚 拓海

春学期の手話カフェを振り返ってみると、25分という短い時間の中での制約もあったが、たくさんの人に手話に興味を持ってもらうという目的は十分達成できたと思う。その中には熱意がある方もいて、自分から積極的に手話に興味を示してくれる方もいた。

秋学期は、長い時間で丁寧に手話を教える形式をとった。来るお客さんは少なかったが、丁寧に教えていくこと、その場に来てくれた人に楽しんでもらえることを大事にすることができた。

Zoomによるオンライン開催はキャンパスの垣根がなく学ぶことができた。深いコミュニケーションは難しかったが、気軽に参加できることや継続的して学ぶ点では優れていたと思う。オンラインで呼びかけ、アンケートを取り、教材が欲しいなどの意見をもらうことができた。オンラインでもできることがあると知り、積極的に今後に生かしていきたい。

継続して参加してくださる人がいたおかげで、自分の教え方も改善された。参加者の反応や変化を見ることで、何を教えるべきかを調整することができた。自分で組んだカリキュラムを反省して、次回はもっと良い手話カフェにすることができると思う。

参加者が、笑顔で手話を使い相槌を打ったり、手話を面白そうに学ぶ姿を見ることができてよかった。人とコミュニケーションすることの楽しさや誰かのために教えることの面白さを改めて実感した手話カフェだった。

4キャンパス合同によるオンライン講座 駿河台 和泉 生田 中野

春学期、学生サークルの多くは、秋の活動再開を見込み、新歓や本入部など大半の活動を休止し先送りにしていました。しかし秋学期になっても新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況は改善せず、活動再開はまだまだ難しい状況でした。

そこで、学生が気持ちを切り替え、この状況下でできる活動について前向きに考えていけるよう、また、よりよい活動に結びつくよう、日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）の協力のもと、オンライン講座を企画することとなりました。

「必見！今更聞けないオンラインシリーズ」と題して、IT 機器によるコミュニケーションが苦手な学生のスキルアップを目的とし、全 6 回のオンライン講座を実施しました。

目　的

・IT 機器によるコミュニケーションのスキルアップ
・オンラインボランティアセンターの認知度アップ

（敬称略）

日時（※）	方法	テーマ	講師	参加
2020 年 10 月 6 日（火）	Remo Zoom	オンラインで疲れない、 楽に話す工夫 ～同級生・親しい人編	オンラインイベント IT サポートプロデューサー島袋 孝奈 （一般社団おうえんフェス）	8 名
2020 年 10 月 13 日（火）	Zoom	オンラインで疲れない、 楽に話す工夫 ～先輩・後輩・初対面編	オンラインイベント IT サポートプロデューサー島袋 孝奈 （一般社団おうえんフェス）	8 名
2020 年 10 月 15 日（木）	Zoom	参加者が安心できる オンライン会議術！	青木 将幸 （青木将幸ファシリテーター事務所）	15 名
2020 年 10 月 20 日（火）	Zoom Miro SpatialChat Kahoot	オンラインツール いろいろ体験！	オンラインイベント IT サポートプロデューサー島袋 孝奈 （一般社団おうえんフェス）	6 名
2020 年 10 月 22 日（木）	Zoom	オンライン会議 ファシリテーション体験！	青木 将幸 （青木将幸ファシリテーター事務所）	9 名
2020 年 10 月 27 日（火）	Zoom Kahoot	ＳＮＳいろいろ活用術！	オンラインイベント IT サポートプロデューサー島袋 孝奈 （一般社団おうえんフェス）	8 名

※ 12：30 ～ 13：30

協　力

日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）

政治経済学部２年　井上 豪

私はオンラインツールを使ってファシリテーターをやる事が多かったので、青木さんのオンライン講座を受けました。講座ではファシリテーションにおけるテクニックについて青木さんがレクチャーをするだけでなく、実際に私たちも参加者視点で楽しんでアウトプットしたので、その後のオンラインイベントでも学んだテクニックを自然と用いることができました。

例えば、「ブレイクアウトルームに分かれて議論を始める前に、各参加者の考えやアイデアを紙に書いてもらう」というテクニックがあります。これを自分たちのイベントで用いたところ、参加者がより自発的に意見を発するようになり、「他の参加者の状況を見て自分の意見を言う」ということがなくなったので議論がとても活発になるということもありました。また、それを使って「4人中何人が同じ意見を出したか？」あるいは「どれだけ多く違う意見を出せたか？」といった数を競うちょっとしたレクリエーションにもできました。

オンライン講座自体もとても楽しかったです、というのも講座自体が実際のオンラインイベントになっていてレクリエーションも充実していて参加者が発言しやすい環境があったので実感を伴いながらテクニックを学ぶことができたからです。

▲インスタグラムポスター

ピニャータの中身作りボランティア 駿河台

自宅でできるボランティア活動として、障がい者福祉施設のお誕生日会で使用する「ピニャータ(くす玉)」の中に入れる折り紙の制作を行いました。Zoom 上で作り方の説明を聞き、１つの作品をみんなで交流しながら作りました。

日時	作成折り紙	参加
2020 年 9 月 7 日(月) 13：00 ～ 14：00	めいじろう(ふくろう)	学生 6 名、職員 2 名
2020 年 12 月 23 日(水) 14：00 ～ 15：00	鬼滅の刃お守り	学生 9 名、職員 2 名

方　法 Zoom

協　力 荒川区荒川生活実習所

参加者の声

・小さいころに折り紙が好きで、今ずっと家にこもっていて社会に対してできることが限られている中で、いいチャンスだと思い参加しました。とてもアットホームな雰囲気で楽しかったです。達成感がありました！
・コロナウイルスの状況下で中々話す機会が少ない中でボランティアを通して、会話する事が出来て非常に楽しかったです。

施設からの感想

荒川生活実習所は 18 歳以上の知的障がいや身体障がいのある方々が介護や情緒面でのサポートを受けながら、日々の生活と将来を充実させるために通う施設です。

昨年、コロナ禍で活動が制限される中、ボランティアの皆様に作っていただいた品物を詰めて、利用者様と職員で「ピニャータ」を作りました。

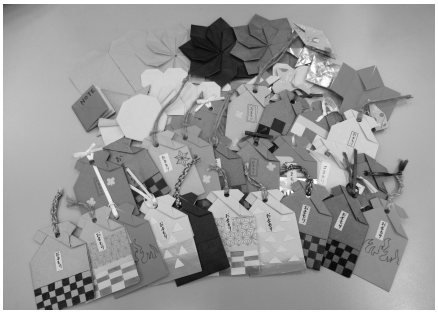
活動の中で利用者様が一生懸命にピニャータを叩き、中身が割れ、上記の品物が出てくると「すごい！」「これ可愛い、誰作ったの」「学生？どこの？」と笑顔で喜ばれ、中には「これ持ち帰っていい？」と手裏剣の折り紙を飛ばしている利用者様もいました。

活動が終わっても和風柄のお守りを車椅子に付けられている方、連絡帳に貼り付けている方など、利用者様の思い出に残る経験になったことが感じられました。ボランティアに参加してくださった学生の皆様、本当にありがとうございます。

今後もボランティア活動を募集させていただきますので、ご参加をお待ちしております！

▲ピニャータ全体の Zoom 写真

▲施設のピニャータの様子



▲ピニャータ折り紙お守り

▲ピニャータ折り紙めいじろう

杉並区高齢者との「お茶会」和泉

和泉ボランティアセンターは、地域包括支援センター「ケア 24 永福」と連携し、地域に住んでいる高齢者の方々が、互いに交流を深め、安心して生活できる地域づくりを目指した交流会「お茶会」を定期的に実施してきました。しかし、2020 年 3 月・6 月とコロナウイルスの感染防止の観点から、立て続けに中止することにしました。更には大学の春学期の授業開始も延期となり、学生たちもがっかりする中、会えなくても何かできることはないか、との思いで、お手紙を届けることになりました。

秋以降も会える目途がたたない状況のため、12 月にも再度お手紙を届けることにしました。学生たちは更に工夫を凝らし、手書きのメッセージに加えて、学生数名のメッセージ動画を作成し、URL や QR コードと、再生方法を記載した紙を同封しました。『また、何か反応をもらえたら嬉しいね』と、返信用の封筒や、インターネット環境・ご意見をお聞きするアンケートも同封しました。

高齢者の方から届いたお手紙には、近況はもとより、キャンパスに通えない学生たちの状況を気遣ってくださるメッセージも多く、私たちの方が励まされました。3 月には、アンケートの結果を踏まえ、オンラインでお話をする「ミニ・お茶会」を小規模ながら開催することができました。

会えない中でも出来ることを模索した 1 年でしたが、今後も感染状況を見ながら、つながりを持ち続けることに取り組んでいきたいと思っています。

<第一弾　お手紙送付>

日　時　2020 年 5 月　　**参　加**　学生 16 名、計 48 通

内　容　共通メッセージ「会える日をおもって　今日も優しく」を添えた手紙を学生各自が書き、ケア 24 永福を通じて高齢者宅に配布

<第二弾　お手紙送付>

日　時　2020 年 12 月～1 月

参　加　学生 6 名、計 19 通、高齢者からの返信 12 通

内　容　①共通メッセージ「会える日をおもって　今日も優しく」を添えた学生たちの手紙
②学生たちが作成したメッセージ動画の URL や再生方法を記載した文書
③各家庭の通信環境等を訪ねるアンケートと返信用封筒
これら 3 つをケア 24 永福を通じて高齢者宅に配布。

<ミニお茶会・オンラインの実施>

日時・参加

①2021 年 3 月 16 日(火)14：00 ～ 15：00、学生 3 名、地域の方 6 名、職員 4 名
②2021 年 3 月 17 日(水)14：15 ～ 15：15、学生 3 名、地域の方 2 名、職員 6 名
ほか 1 施設から複数参加
③2021 年 3 月 23 日(火)14：00 ～ 15：00、学生 5 名、地域の方 4 名、職員 5 名

方　法　Zoom

内　容　今飲んでいる飲み物や、春の思い出、春の映画、などをテーマにした自己紹介や歓談

▲5 月に送付した学生たちの手紙

▲高齢者の方からいただいた返信

政治経済学部 2 年　高崎 澪

私は 2019 年 12 月のお茶会に参加しました。その時は多くの高齢者の方に参加していただき、とても楽しかったのを覚えています。しかし、その後準備を進めていた 3 月のお茶会はコロナにより中止になりました。対象が高齢者ということもあって、当分お茶会メンバーとしての活動は厳しいかなと思っていました。

ただコロナ禍でも何かできることはないか考え、お手紙を送ることになりました。どなたに届くかは分かりませんでしたが、自分の状況や最近ハマっていること、またメンバー共通で「会える日をおもって、今日も優しく」という言葉を書きました。私自身、最近は SNS でのやり取りが主で、直筆でお手紙を書くのは久しぶりでしたが、時間をかけて言葉を考えるのはとても楽しく、「どんな気持ちで読んでくれるだろう」とドキドキワクワクした気持ちで書きました。お手紙に対しての返信も数件いただき、直接は会えないけれど、お手紙を通してお互いを知り、つながりを感じられたのは、とても嬉しかったです。

また、オンラインでお茶会も開きました。短い時間でしたが、色々なお話を聞けて、久しぶりに交流できてよかったです。まだまだ制限される中ではありますが、今後も色々な企画を試して、高齢者の方と少しでもつながりを感じ、楽しい時間を過ごせたらと思います。

法学部 2 年　玉氏 亜美夏

お茶会が中止になってしまい、私は 1 年生の時に 2 回しか参加していないうえに、2 年生になり、いよいよこれからという時だったので、仕方のないこととは言えとても残念でした。お茶会の学生メンバーでお昼に集まって準備することも楽しく、かけがえのない日々でしたし、そうして準備してきたお茶会では参加者の方々に笑顔になっていただけ、お褒めの言葉をいただいたりもして、やりがいを感じていました。

手紙を書いた際にはコロナ下で不安な今ですが、少しでも読んでいただいた方に笑顔を届けられるようにと思って作成しました。お返事には「大学生も大変だと思うけれど頑張ってね」といった私達を励まして下さるような言葉をいただき、元気づけられました。特に「鬼滅の刃について皆さんとお話ししたい」と書いてくださったのを読んで私もお話ししたいと思い、よりいっそうお茶会への期待が高まりました。

オンラインお茶会では琴が弾けるとおっしゃっていた方がいて、「お茶会で弾けば？」などと話されていたのが印象的で、あまり琴の演奏を聴くことがないのでぜひ聞いてみたいと思いましたし、何か楽器を演奏できる方の演奏をお茶会で聞く、というのも素敵だなと思いました。オンラインお茶会では話すことも話を聞くことも楽しく、Zoom の操作も授業で慣れているので問題なかったのですが、高齢者の方々にとってはどうなのか、というのが難しいなと感じました。また、準備のために集まるということもできないのでメンバーの交流方法も課題だと感じました。これからもみんなが楽しめるお茶会を作っていきたいです。

高齢者施設とのオンライン企画 和泉

日頃より情報交換を密にしている杉並ボランティアセンターの方から、高齢者の施設に入所されている方々が、コロナウイルスの影響でご家族ともなかなか会えない日々であることなどを聞いたことがきっかけでした。大学には音楽や落語、手品など様々なサークルがありますが、なかなか対面での活動ができない中だったため、お互いに何かできないか、と考えました。何かオンラインで特技を披露してくれる学生を広く募ったところ、２人の学生がそれぞれの特技を生かした企画で手を挙げてくれ、本企画が実現しました。

ピアノの演奏については、学生本人も生演奏の配信は初めてだったため、タイムラグがないか、音が割れたりすることなくきちんと届くのか、心配がありましたが、当日はスムーズに大きなトラブルなく演奏を届けることができました。一緒に歌うことは難しかったため、演奏や曲の解説を聞いてもらう形になりましたが、気持ちよさそうに体を動かしたり手拍子をしたりしながら聞いてくださる方もいらっしゃいました。

哲学対話の企画については、認知症の方も入所されている施設で果たしてどのように実現ができるか、施設の方も交えて「そもそも哲学対話とは何か？」というところから相談を始め、コミュニケーションが比較的取りやすい方を中心に声をかけていただくことになりました。当日は、「おいしいって何？」をテーマに、好きな食べ物から、施設の食事の話、おいしく食べたシチュエーションの話など様々な話題になり、あっという間の 30 分でした。

オンラインの扱い方とともに、意外と様々なことがオンラインでもできると分かってきました。今後も、学生の「何かしたい」という気持ちや、特技を生かしながら、誰かに喜んでもらえるような取り組みを考えていきたいと思います。

＜ピアノ演奏企画＞

日　時　2020 年 12 月 17 日(木)16：00 ～ 16：30
参　加　学生１名、高齢者約 20 名
方　法　Zoom
内　容　学生のピアノの生演奏を Zoom にて高齢者施設へ届けた

＜哲学対話企画＞

日　時　2021 年２月 25 日(木)16：00 ～ 16：30
参　加　学生３名、高齢者５名、職員４名
方　法　Zoom
内　容　学生の進行で「哲学対話」の手法を用いた参加者同士の交流（テーマ：おいしいって何？）

経営学部４年　佐々木 亮輔

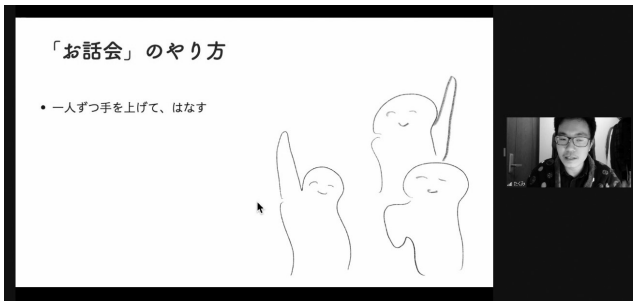
Zoom での生配信での演奏は初めてで、多少の不安もあったが、ご利用者の方から「楽しかったよ」「上手だったよ」と前向きな言葉をいただけたことが良かった。一方で、クラシック曲は「曲を知らなかった」との声もあったので、そこは反省したいと思う。また、新型コロナウイルスでボランティア活動が制限される中で、オンラインボランティアの一つの形を示せたと思うので、今後のボランティア活動にも活かしていきたい。

▲演奏する佐々木さん（左）と聞き入る施設の方々（右）

総合数理学部３年　大塚 拓海

「哲学対話」という方法で、施設にいる方と話をしてみたいと思った。「哲学」とあるが、専門的な知識は必要ない。あるルールのもと、子供から大人まで同じテーブルで話ができるやり方だ。直接人と会えない状況の中、少しでも人との関わりを作れたらいいと思った。

どうやってパソコンを繋げるか、そもそも哲学対話とは何か、施設の職員さんと打ち合わせを重ね、当日を迎えた。ボランティアセンターの職員さん、施設の職員さんに栄養士さん、おばあちゃん、大学生。みんなの顔が集まる賑やかな画面を眺めているだけで楽しい気持ちになった。



▲哲学対話のやり方の説明をする大塚さん

「おいしいってなに？」というテーマのもと話が始まる。誰かが話すたびに拍手や笑いが起こる。おばあちゃんが何かを言いたそうに恥ずかしがっているのをみて、職員さんが手を持って、一緒に挙手をする。

一つ一つの出来事が面白かった。画面越しにも温かい雰囲気が伝わってきた。元気なみんな（特におばあちゃん）の姿を見てこちらが元気をもらえた。

色々な人の協力があって素敵な対話の場ができあがっていた。手伝ってくださった方、参加してくださった方、全てに感謝したい。また色々な人と、対話を通して出会い続けていきたいと思う。

NPO 法人による食材＆日用品のお渡し会 中野

「NPO 法人ここからプロジェクト」より、食料や日用品などを提供するイベントのご案内をいただき Oh-o!Meiji にて中野キャンパスの学生に周知しました。

団体アンケートによれば、全申込み件数 95 件のうち大学生は全体の約 7 割を占め、申込み理由もさまざまで、コロナ禍の中で学生が苦労を強いられている状況が浮き彫りになったということです。今後も中野ボランティアセンターは区社会福祉協議会等と連携し、学生へのサポートを行う予定です。

日　時　2021 年 2 月 23 日(火・祝)13：00 ～ 15：00

場　所　中野区役所

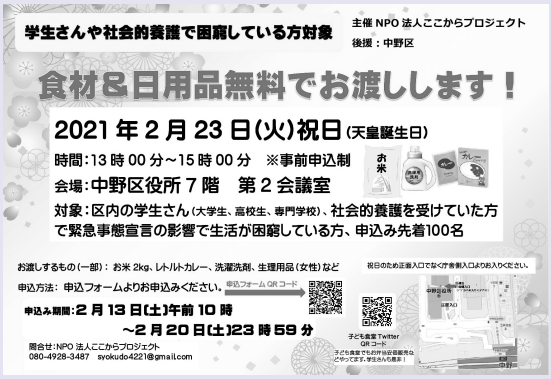
主　催　NPO 法人ここからプロジェクト

後　援　中野区

内　容　食材＆日用品のお渡し会　＜事前申し込み制　申込先着順：100 名限定＞

・全申込み件数　95 件のうち
　大学生　67 件(70%)
　うち明大生　25 ～ 30 件(予想)

・申込み理由(任意記入)
　親の収入減……4 名
　バイトを減らされた……2 名
　経営事情でバイト解雇・休業……2 名
　コロナに罹患して解雇……1 名
　留年して奨学金に申込めない……1 名



▲告知資料

▲当日の様子
ここからプロジェクト Facebook より

バースデーカードと絵はがき作りボランティア 駿河台

自宅でできるボランティア活動として、高齢者施設の誕生日会で贈られる「バースデーカード」と、傾聴ボランティアで使用する「絵はがき」の制作を行いました。Zoom 上で作り方の説明を聞きながら、ポップアップ式のバースデーカードを作りました。その後、交流しながら絵はがきなどを制作しました。多くの学生が「誰かの役に立ちたい」「楽しく交流したい」という思いで参加しました。見本にアレンジを加えた個性的なカードやハガキが集まり、お届けすることができました。

▲バースデーカードと絵はがき作り

日　時	2021 年 2 月 24 日(水)14：00 ～ 15：00
方　法	Zoom
参　加	学生 10 名、職員 2 名
協　力	社会福祉法人 練馬区社会福祉協議会 ボランティア・地域福祉推進センター 社会福祉法人 三鷹市社会福祉協議会 ボランティア推進係

参加者の声

他の学部・キャンパスの方と一緒に交流しながら、誰かの役に立ちたいという同じ気持ちを持って、ボランティアに参加することができてうれしかったです。オンラインでもできる他のボランティアのお話を聞くこともできて良かったです。機会があればまた参加させていただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

▲完成作品

明治 2020@ikuta プログラム 生田

東京 2020 大会に何らかの形でかかわっている人たちが、便利になったり喜んだり助かったり幸福を感じたりするサービスを、学生が立案し、実行をめざすプログラムとして 2019 年度に発足しました。

ワールドカフェ、マンジェ・マンジェ・マンジョン、ゴミ箱の開発、障がい者体験会、モザイクアート、ライブ広報の６つの企画グループが生まれ、2020 年度はいよいよ実行アクションに入ろうとするその矢先に、コロナ禍がおそい、早々と東京 2020 大会の延期が決まりました。大学生にとって１年の計画延長は学年が１学年変わることであり、できなくなったりもっと違うことをしたいと考えたりするはずで、各グループでどうしていくかを話し合いました。企画をやめずに、新メンバー募集時期まで継続することを決めました。なお、2020 年６月に明治 2020 から明治 2020@ikuta と名前を変更しました。

その後、感染状況が見通せないまま、結局１年間ずっと学生間の対面が禁止される状況が続き、コロナ禍に翻弄され続けました。６つのうち、３つの企画グループはオンラインで活動をつづけ、３つの企画グループは活動を休止しました。各グループの活動内容については下記にまとめました。

2021 年３月に話合いを行い、今のメンバーは一旦解散し、めざす方向を一部変更し 2021 年度にあらたにメンバーを募集し再結成することを決め、2021 年度新歓のポスター・チラシ作成を行って活動を終了しました。

日　時　2020 年４月１日(水)～ 2021 年３月 31 日(水)

参　加　116 名(オンラインミーティング 33 回)

グループの経過

① **ライブ広報**

インスタグラムやホームページなど SNS を運用して明治 2020 の活動情報を発信するグループ。５月上旬連休のオンライン新歓(Zoom)、５月下旬の生田オンライン新歓(Zoom)にそれぞれ参加。６月中旬の団体名変更のとりまとめ役、10 月下旬オンライン生明祭カウントダウン企画に参加。７月～ 12 月のモザイクアートグループによるアート作成に協力(写真募集、完成周知等)

② **マンジェ・マンジェ・マンジョン（ノーフードロス）**

まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物を明治大学やオリンピック・パラリンピックから減らすべくイベントを企画するグループ。

４月、大会中に大型スクリーンで競技観戦しながら飲食しフードロスについて考えるイベントを計画。５月、計画の進行を休止、その後、３月まで、月１回程度のオンライン定期ミーティングを開き互いの近況報告や情報共有を行った。

③ **モザイクアート**

もともとは、明大生から、何かを頑張っている写真を集めてモザイクアートを作り、明治大学にゆかりのあるオリンピック・パラリンピック選手にアートを贈呈しようという企画グループ。東京 2020 大会が延期になったため、４月中旬に方向転換。東京 2020 大会に限らずメンバーがやりたいことでのモザイクアート制作をめざす。５月、コロナ禍でも頑張っている写真を明大生から募集し、その写真を使って明大生を応援するモザイクアートを制作することに決定。話合い、募集、デザイン、制作、公開過程をオンライン上で行い、完成させた。

モザイクアート制作

内容

①Stay Home している写真／ Stay Home 期間から始めたこと／コロナに負けない写真を明大生から募集

②その写真を使って明大生の希望になるモザイクアートを制作

意義

・大勢で作り上げる作品は、作る過程で大勢の考えるきっかけをうみだす。

・多くの人の写真を使うことでこの時期に明大生だった一人一人の意思を込めることができる。
・この時期を記録する。みなで作り上げた作品をコロナが蔓延した時代のシンボルとしてこの件を風化させないようにする
・次世代の明大生に対して、今の状況をしっかりと伝えていけるようなアートを作り上げることには意味がある。時代が進んでも色褪せないようなデザインにする。

▲完成したモザイクアート

方法

話合い　Zoom
＊写真の募集　学内ネット・公式 Instagram で明大生に呼びかけ、公式 LINE、公式 Instagram、Dropbox　で収集
＊ 202 枚の写真の提供の協力を得る

デザイン　Powerpoint
＊めいじろうと世界中の人々が助け合っているデザインを採用

アート制作　Mosaic、Aprico
＊めいじろうの部分に細かなアウトラインが残るよう、一度に全部創らず、いくつかのパーツに分けて制作し、その後合体

公開　公式 Instagram、公式 LINE、MeijiNow への寄稿、キャンパス巡回ポスター展示

企画者の声

理工学研究科 2 年　平泉 達哉
理工学部 2 年　宮本 瑠奈乃
農学部 3 年　今成 季世
農学部 2 年　佐々木 萌

新型コロナウイルスの流行により新しい生活様式での過ごし方を余儀なくされ、まだまだ予断の許さない状況が続いています。新入生はキャンパスに入ることができず、全学生のほとんどがオンライン授業を受講している状況が続きました。このような中で、私たちは「明大生の皆さんに向けて少しでも明るいイベントができないだろうか」と考えるようになりました。

「この現状を風化させないために」とモザイクアートの作成を企画しました。また、完成したモザイクアートを見て、「会えなくてもつながっている」「新型コロナウイルスが収束に向かっている」という希望になれたらと考えました。

▲オンラインミーティングの様子

モザイクアートをどんな形でお披露目しようかと考えていた時期が一番印象深い思い出です。はじめは、T シャツや横断幕のような形あるものを想定していました。しかし、コロナ禍で大学に行けない状況が続くにつれ、次第に「オンライン上で形を残せるものの方が良いのではないか？」という意見が出るようになり、SNS や Web サイトでの掲載を考えるようになりました。このように状況に合わせて方向転換できた柔軟性はモザイクアートチームの強みだと感じます。

企画してよかったと思うのは、多くの人がそれぞれ思い出深い写真を提供してくれたことです。コロナ禍で新しく始めたことだったり、友人と笑顔で撮った写真だったり、温かい写真ばかりでした。写真を通じて、皆さんが大切にしていることを再発見するきっかけ作りになっていたらうれしいです。

活動をしていて大変だったことは、以前は毎週お昼休みにボランティアセンターに集まってミーティングを行っていたのに対し、2020 年度はリモートのみで行ったことです。一緒に調べることが難しかったり、伝わりづらかったりと、リモートならではの大変さを感じました。

「コロナに負けないモザイクアート～写真を送って明大生だけのモザイクアートを作ろう～」にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました！皆さんの思いが詰まった素敵な写真のおかげで、希望溢れるモザイクアートを作り上げることができました。

新型コロナウイルスにより私たちの生活は一変し、まだまだ予断の許さない状況です。それでも「今、自分たちができることをしよう」という思いを持って、周りの仲間と助け合いながら、この状況を乗り越えられるように共に頑張ってまいりましょう！

ホームカミングデーへの協力 駿河台

日　時　2020年10月25日(日)

方　法　動画配信

参　加　駿河台ボランティアセンター直属の学生団体 Tree

内　容

2020年度のホームカミングデーは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、キャンパスでの開催が中止となり、オンライン形式で実施された。「特設サイト（ホームページ）」が開設され、動画配信等によるコンテンツを楽しんでいただく形で実施することになったため、Treeは「おうち de キッズワークショップ」というテーマで、明治大学マスコットキャラクターである「めいじろう」の「めいじろう折り紙動画」を制作・公開した。

▲動画配信の内容①

▲動画配信の内容②

▲動画配信の内容③

文学部3年　松浦 もも子

キッズ向けワークショップを動画配信することは決まっていたのですが、どのような動画をお届けすれば喜んでいただけるか、メンバー全員で話し合いを重ねました。

前年にめいじろうの塗り絵をワークショップとして開催していることもあり、今年も明治大学のマスコットキャラクターの「可愛さ」を生かしてポップな印象にしました。

今年はおうち時間の急増で、ご家庭で過ごされる時間が多いと考えたため、少しでもおうち時間を楽しんでいただけるよう工夫しました。

描画や工作をするだけでなく、「飾って楽しめる」という観点から立体の折り紙を採用し、ポップなめいじろうをご自宅でもお楽しみいただけたと思います。

また折り紙制作が、親子で楽しめるようになっており、おうち時間の充実や、楽しいホームカミングデーを演出できたのではないかと思います。

来年は来場者の方と直接交流できることを願っております。

科学教室の実験テーマ創り 生田

コロナ禍により、2020 年度春学期は今まで行ってきた形での“大学生によるこども科学教室”を計画し開催することはできなくなりました。対面での課外活動全般が禁止となったため、学生たちが集まって実験テーマを試作したり検討したりすることも出来なくなりました。

7 月になり、そこでまずは対面でなくオンラインで実験テーマの検討をはじめることにしました。企画をしたい人／当日教室を運営したい人／両方したい人を全キャンパスから募集したところ、多彩な学生が集まりました。

このテーマ創りの時点ではまだ、教室の開催は対面で行える希望をもっていました。しかし結局、2020 年度は、最後までボランティアセンターの対面活動ができなかったので、企画から開催まで、学生はすべて対面せずオンラインで行うというコロナ禍だからこその新しい試みに挑戦することとなりました。なお、学部や学年、キャンパスをも越えたメンバーで企画を行えたのは、コロナ禍でのオンラインならではだったとふりかえって思います。

日　時 2020 年 7 月 27 日(月)～9 月 2 日(水)　　**参　加** 77 名(登録 36 名)

内　容

科学教室の実験テーマを創る。
メンバーがしてみたい実験や工作の情報を持ち寄り、試作候補を決め、同じ材料を使って自宅にて試作、試作結果を共有し、実験テーマを絞り、最終決定する。オンラインミーティング 7 回と自宅での試作で構成される。

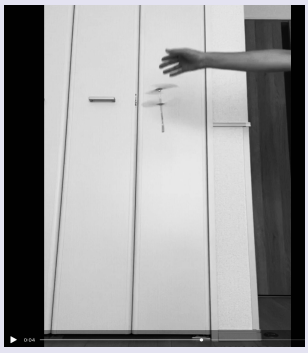
テーマ

	テーマ数	テーマの内容
持ち寄り	48	
試作	8	ぽんぽん船、竜巻、水だんご、酢と重曹、色を変えられる花、スノードーム、野菜の水、竹トンボ
決定	3	水だんご、色を変えられる花＋酢と重曹、紙トンボ

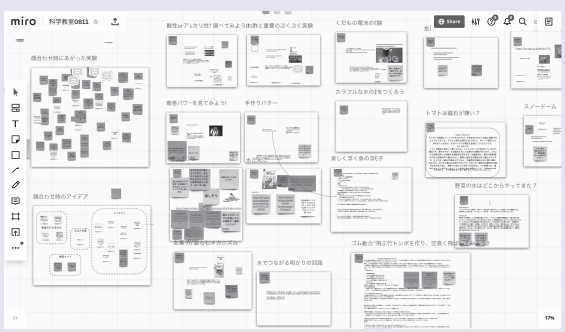
方　法

試作	ボランティアセンターが材料を郵送し、学生が自宅にて試作を行う
共有	Miro、LINE オープンチャット、Google スプレッドシート
会議	Zoom

▲材料は自宅へ配送



▲試作状況を動画や画像で共有



▲ Miro シートに情報や意見を書き込み合う

科学博士になろう① 生田

キャンパス近隣の児童館で開催する恒例の科学教室プログラムです。夏休みに３つの実験テーマが生まれたことを受け（→ p.43 参照）、テーマごとに、教室開催のための検討・運営グループが発足しました。実際に教室を開くための材料や器具の選定、どんな流れで行うかなどの企画がオンラインではじまりました。

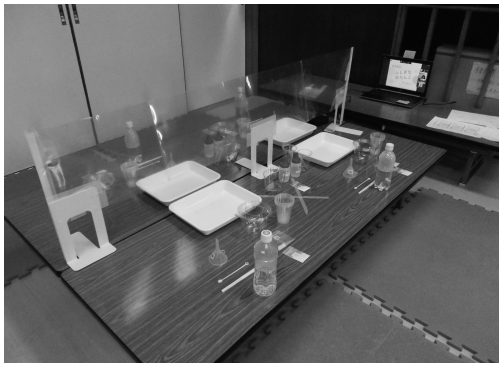
「水だんご」グループは、企画から当日運営までをほぼ同じメンバーが行う教室となりました。

この頃、大学の活動制限指針が変更になり、公認サークルは大学に申請を行い認可を受けて感染対策を講じれば、対面活動が行えるようになりました。本プログラムも一旦は対面を検討し感染拡大防止対策の準備をすすめましたが、大学主催の活動であることから対面開催については慎重に見合わせることになりました。

このような経緯がありメンバーにあらためて開催の意志を確認、オンライン上で学生と子どもたちがコミュニケーションを取りながら実験ができる方法を模索し、検討を重ね、遂には「大学生がこどもに対面しない」新しい形での科学教室になりました。

学生にとっては、企画から開催までのすべてを、メンバーとも、子どもたちとも、対面せずに行っています。当日はオンライン上の工夫、たとえば、自分の手元と顔の両方が画面に映るよう調整台を置いた上で実験をしたり、スマートフォンでもカメラを用意し水だんごができる様子を上から映すなどの工夫を行いました。

▲水だんご



▲会場の様子

日　時　2020 年 12 月 12 日(土)
企画・準備・ふりかえり　2020 年 9 月 24 日(木)～ 2020 年 12 月 22 日(火)

内　容　小学生むけ科学教室の計画および開催

連　携　三田こども文化センター
※明治大学生田ボランティアセンター…科学教室の運営。大学生の募集。材料の搬入出。行事保険の加入。OA 通信機器の提供。
※三田こども文化センター…場所と什器の提供。子どもたちの募集。OA 通信機器の提供。

場　所　自宅、三田こども文化センター、生田ボランティアセンター

方　式　小学生３、４人に明大生２人がオンラインで寄り添う小グループ方式。

参　加　47 名
＊企画・準備・ふりかえり　ミーティング 41 名
＊当日運営　６名

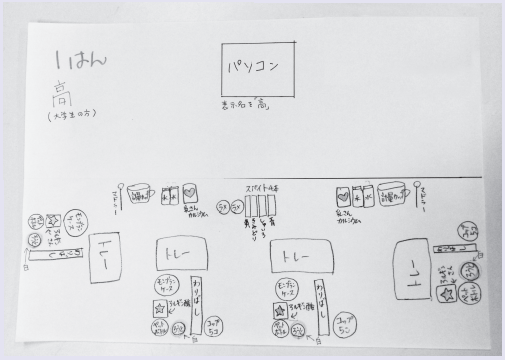
体　験　小学生 11 名

テーマ　アルギン酸ナトリウム水溶液に乳酸カルシウム水溶液を静かに投入し、膜を形成、つかめる水だんごを作る実験

方　法

学生は自宅でオンライン(Zoom)
こどもと職員は三田こども文化センターで対面

＊企画・準備・ふりかえり　Zoom でミーティング８回、自宅で個別に試作
※会場に WiFi を設置。３グループ(１グループにこども３、４人とノート PC １台)。会場中央のノート PC にスピーカーフォンを接続。学生は自宅で PC ＋必要に応じスマートフォン。生田ボランティアセンター PC にて Zoom ホスト操作。
※実験には Zoom ブレイクアウトルームを採用。最初の挨拶、途中のデモ実験、終わりの挨拶には全体ルームを採用。ブレイクアウトルームは、少人数となりコミュニケーションを取りやすく、ハウリング防止になった。全体ルームではスピーカーフォンをつけたノート PC １台以外をミュートにしてハウリング対策を行った。



▲机上レイアウト

企画者の声

文学部１年

私が活動を終えてみて一番印象的だったのは、すべてオンラインだったにも関わらず、とても充実したと感じていたことです。試作も面倒というよりも、科学実験そのものを自分でも楽しんでいました。科学教室本番では子どもたちの笑顔を見ることができて、とてもやりがいを感じました。最初にアイデアを出してやるものを決める段階では、自分が今まで使ったことのなかったオンラインでの機能を使いつつ決めていったので、オンラインで様々なことができるのだとわかってとても新鮮でした。

また他学部、他学年の交流もあって普段は関わらない人とコミュニケーションをとることになるので、コミュニケーション能力という観点でもとても役立ちました。さらに時間の拘束もほとんどなく自分が参加できる範囲でできたので、苦痛に感じることは全くありませんでした。今回の活動でオンラインの可能性を体験することができ、これから増えていくオンラインのみの活動も苦にならずにできるような気がしています。これまでボランティアと聞くと気軽にできる印象はあまりありませんでしたが、今回の科学教室のボランティアを通して他にも様々なボランティアをやってみたいと思うようになりました。

▲ スマホカメラで上からも撮影

▲顔も手も見える工夫

科学博士になろう② 生田

「紙トンボ」グループは、企画から当日運営までをほぼ同じメンバーが行う教室となりました。
工作系の実験ということで、事前にある程度パーツを作成する必要がありました。学生は牛乳パックを切って穴をあけたり、針金を切ってビーズを通し曲げるなどの作業を自宅で行い、できあがったパーツを生田ボランティアセンターへ郵送しました。当日は学生１人と子ども２人で１グループとなり、オンライン上でひとつひとつの工程を、子どもたちの進み具合を確認しながら行うことができました。

日　時　2020 年 12 月 19 日(土)
企画・準備・ふりかえり　2020 年 9 月 23 日(水)～ 2020 年 12 月 22 日(火)

内　容　小学生むけ科学教室の計画および開催

連　携　三田こども文化センター
※明治大学生田ボランティアセンター…科学教室の運営。大学生の募集。材料の搬入出。行事保険の加入。OA 通信機器の提供。
※三田こども文化センター…場所と什器の提供。子どもたちの募集。OA 通信機器の提供。

場　所　自宅、三田こども文化センター、生田ボランティアセンター

方　式　小学生２人に明大生１人がオンラインで寄り添う小グループ方式。

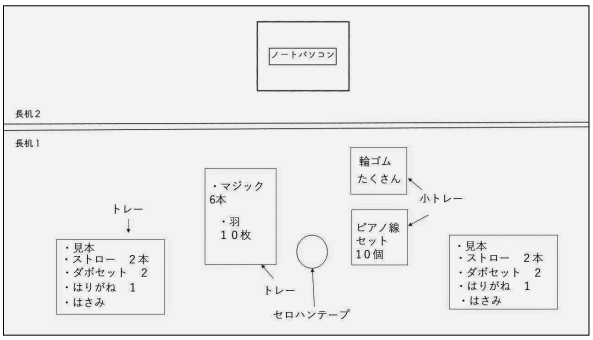
参　加　20 名
＊企画・準備・ふりかえり　ミーティング 17 名
＊当日運営　３名

体　験　小学生６名

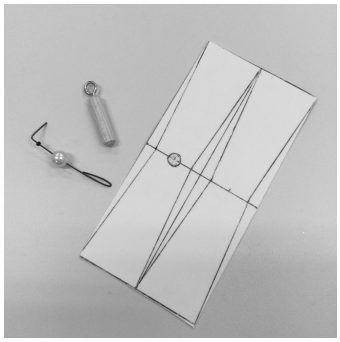
テーマ　牛乳パックで作った羽とゴム動力で高く飛ぶ紙トンボを工作して飛ばす実験

方　法　学生は自宅でオンライン(Zoom)、こどもと職員は三田こども文化センターで対面
＊企画・準備・ふりかえり　Zoom でミーティング７回、自宅で個別に試作・パーツ作成
※会場に WiFi を設置。３グループ(１グループにこども２人とノート PC １台)。会場中央のノート PC にスピーカーフォンを接続。学生は自宅で PC。生田ボランティアセンター PC にて Zoom ホスト操作。
※実験には Zoom ブレイクアウトルームを採用。最初の挨拶、終わりの挨拶には全体ルームを採用。ブレイクアウトルームは、少人数となりコミュニケーションを取りやすく、ハウリング防止になった。全体ルームではスピーカーフォンをつけたノート PC １台以外をミュートにしてハウリング対策を行った。

農学部１年
「毎日パソコンと向き合う大学生活、何か新しいことを始めてみたいな」そんな気持ちがふと湧いたのが、今回の子ども科学教室に参加するきっかけでした。オンライン上での初めての企画会では、会ったことの無い人たちと、しかも画面越しに話すということでとても緊張していたのを覚えています。ですが、ミーティングの回数を重ねるとたとえ直接会うことは出来なくとも、一つの企画について意見を交わ



▲机上レイアウト


▲手作りのパーツ

すことに楽しさを感じるようになりました。
　実験の試作に移ってからは、それぞれが制作してオンライン上で進行状況を話し合うという形をとっていましたが、ミーティング毎に新たな発見があり大学に通えない中での楽しみの一つとなっていました。
　試行錯誤を重ね、ついに実験当日を迎えました。開始前まで私はとても緊張していたのですが、実験が始まると参加してくれた子どもたちは自由に実験を楽しんでいました。画面越しに説明をするのはどうしても難しさはありますが、子どもたちを見ていると何よりも楽しむことが一番だなと気づかされました。
　今回科学教室の企画・運営を通して、もちろん楽ではなく試行錯誤も重ねましたが、家でオンライン授業を受けるという生活の中に楽しみとやりがいを見出すきっかけになったと感じています。今後もボランティアを通じて、自分自身が楽しみつつも微力ながら何かに貢献させて頂ければと思います。

理工学部１年

▲下の羽根の説明

　私は科学に無限の可能性を感じ、理工学部に進学しました。どんな問題も科学で解決できると言っても過言ではないでしょう。そんな科学に子供達が少しでも興味を持ってもらおうと、この科学実験教室の企画と運営に携わりました。
　今回は新型コロナウィルスの影響もあり、企画から運営、そして当日までもがリモートとなりました。ボランティアセンターの方々も初めてのリモート科学教室であったため、うまく行かない所がたくさんありました。最も大変だったのは子供たちに直接教えられないという事です。特に紙とんぼは繊細な部分が多く、大学生の方でも失敗するような難しい実験でした。水だんごの方は粉を入れて混ぜたりするだけなので、少しおおざっぱにやってもうまく行きました。
　実験の企画の時に学年と実験のレベル、そしてリモートでも教えられるものかという事を考えた方が良かったと感じます。リモート会議に人が集まらなかったり、子供達の材料の準備など大変なことがたくさんありましたが、子供たちが笑顔で実験している姿を見た時、全てが報われた感じがしました。自分が企画し、運営した実験で子供たちが楽しんでいるのはとてもとてもうれしかったです。子供達がこの科学実験教室を通して科学に興味を持ってくれているとうれしいです。この実験教室に携われてよかったです。

農学部１年

　私は『紙トンボ』の企画と運営を行いました。
　試作を繰り返しながら企画をしていったのですが、なかなか上手く飛ばずに苦労しました。最終的には牛乳パックで羽を作ることになりました。お互いにアイデアを出してより上手く飛ばすための改良点を見つける過程は工作の面白さを感じました。また、同じ大学の学生さんとオンライン上で顔を合わせることができ登校回数が少なかった私にとっては貴重な体験でした。

▲上の羽根の説明

　当日はオンラインで、作り方を小学生に教えるということで不安がありました。しかし、低学年の生徒も物分かりがよくスムーズに製作を進めることができました。画面越しではありましたが私の説明を真剣に聞き、楽しそうに紙トンボを作る姿が嬉しかったです。反省点としては、原理の説明が難しかったことです。小学生に分かりやすく興味を持ってもらう必要がありました。
　オンラインでもお互いに楽しむことができましたが来年度以降、科学教室が対面で実施されることを祈っています。一緒に企画・運営を行った皆さん、そして小学生の皆さんありがとうございました。

科学博士になろう③ 生田

「色を変えられる花＋酢と重曹」グループは、ある程度まで企画がすすんだものの、教室を開催運営するメンバーが出てこないまま、秋学期の授業が終わろうとしていました。そこで企画グループを一旦解散し、夏の「実験テーマを創った」メンバーにあらためて声を掛け、集まったメンバーで運営グループを再結成しました。

▲酢と重曹の化学反応

実験の中にコーヒーフィルターを青色に染めて乾かす工程があり、ソーシャルディスタンスを保つため自然乾燥を行おうと、連続２日間の科学教室として開催しました。タイトルを「にじいろフラワー」と命名し、１日目には染める工程と重曹と酢を使う別の実験を併せて行い、その後自然乾燥、２日目に花づくりの工程を行い、これらを通して酢と重曹のさまざまな特性を学びました。学生はオンライン Zoom 上でスライドを画面共有するなど原理の説明にも工夫を凝らしました。

日　時　2021 年３月 26 日(金)・27 日(土)
＊企画　2020 年９月 22 日(火)～ 10 月 29 日(木)
＊準備・ふりかえり　2021 年２月 15 日(月)～ 2021 年４月 15 日(木)

内　容　小学生むけ科学教室の計画および開催

連　携　三田こども文化センター
※明治大学生田ボランティアセンター…科学教室の運営。大学生の募集。材料の搬入出。行事保険の加入。OA 通信機器の提供。
※三田こども文化センター…場所と什器の提供。子どもたちの募集。OA 通信機器の提供。

場　所　自宅、三田こども文化センター、生田ボランティアセンター

方　式　小学生等２、３人に明大生１、２人がオンラインで寄り添う小グループ方式。

▲コーヒーフィルターを青く染める

参　加　50 名
＊企画　ミーティング９名
＊準備・ふりかえり　ミーティング 36 名
＊当日運営　５名

体　験　小学生６名、幼児１名、保護者１名

テーマ　①バタフライピーで青く染めたコーヒーフィルターで花を作り、重曹・酢・レモン汁で変色させる、酸・アルカリの反応実験。②バタフライピーを混ぜた酢と油で２層液を作り重曹を投入、酢と重曹の化学反応と色の変化を観察する実験。

方　法　学生は自宅でオンライン(Zoom)、こどもと職員は三田こども文化センターで対面
＊企画　Zoom でミーティング２回、自宅で個別に試作
＊準備・ふりかえり　Zoom でミーティング７回、自宅で個別に試作
※会場に WiFi を設置。３グループ(こども家族３人にノート PC １台／小学生２人にノート PC １台／小学生３人にノート PC １台＋iPad １台)。会場中央のノート PC にスピーカーフォンを接続。学生は自宅で PC。生田ボランティアセンター PC にて Zoom ホスト操作。

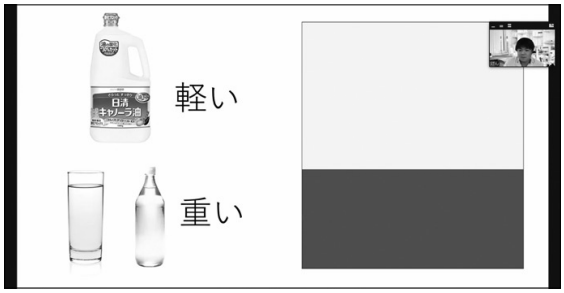
▲綿棒を使って酢を付けてみる

※実験には Zoom ブレイクアウトルームを採用。最初の挨拶、質問タイム、感想発表、終わりの挨拶には全体ルームを採用。ブレイクアウトルームは、少人数となりコミュニケーションを取りやすく、ハウリング防止になった。全体ルームではスピーカーフォンをつけたノート PC 1 台以外をミュートにしてハウリング対策を行った。感想発表ではハウリングに留意しながら iPad を順に回し、こども全員が一人ひとり発表することができた。

運営者の声

文学部 2 年

コロナ禍の今、貢献できることはないかと考えていた時、この実験教室を見つけました。オンラインということで自宅から遠い生田キャンパスに行かなくても参加できるということ、子供たちとリモートで実験教室を開くという初の試みに惹かれたことをきっかけに参加しました。



▲スライドの画面共有で原理を説明

オンラインで企画・運営していくにあたって、さほど物理的に離れていることは気になりませんでした。それぞれ自宅で実験をして、ミーティングにて意見を出して話し合うことができました。当日は、二人一組で子供たちと個別のブレイクアウトルームで実験をしましたが、手順の説明と解説の二つに役割分担し、難しい原理はパワポを用いて説明しました。画面越しでかつ子供たちはマスクを着けているため、表情を読み取ることが難しかったのですが、役割分担をしたことで、解説や積極的な声掛けがしやすく、子供たちから疑問や驚き、所感を引き出せたように思います。子供たちがわくわくしながら実験をしている姿を見ることができて、自分も楽しむことができました。

このボランティアを経て、オンラインでできることの可能性をさらに感じました。他の取り組みにも興味を持ったため、この経験を基に、現在は別の団体でオンラインサードプレイスのボランティアを始めました。一緒に活動してくださった皆さん、ありがとうございました。

企画・運営者の声

農学部 1 年　藤田 栞乃

科学教室ボランティアの魅力は、イベントの企画から運営までが大学生に一任されている点です。開催する科学教室の内容や、その準備段階における時間のかけ方に関して、非常に自由度が高いと感じました。

▲こども達の感想発表を聴いて笑顔に

学生に課されたタスクがあるとすれば、「科学実験を通じて子供に楽しさと学びを提供すること」です。今回私が担当した児童は、小学校 1 年生と幼稚園児の姉妹でした。幼い子供が対象の場合には、学びの要素を取り込もうとすることにより、楽しさが損なわれてしまう可能性が否定できません。そのため、科学的な話に触れつつも「楽しさ」を優先した運営にすることで、科学的事象への興味を引き出したいと考えました。

しかしながら、当日は参加児童のお母さんから「より科学的なアプローチをしてほしい」という意図が受け取れる場面もあり、保護者のリアクションも見ながらの柔軟な進行が求められました。

運営及び進行について特に難儀したところは、オンラインでのコミュニケーションです。大学生は準備段階から一度も対面することがなかったため、運営を行うチームとしての連帯感を十分に形成することができませんでした。一方で子供の様子を見ていると、大学生が直接手伝えない環境が、結果として自ら試行錯誤する主体的な取り組みに繋がっていたように感じました。

こうした体験を今後の科学教室に活かし、さらに多くの楽しさと学びを提供できるよう努めてまいりたいです。

二階堂高校「ボランティア入門講座」体験談発表 和泉

日本女子体育大学附属二階堂高校(保健福祉コース)に入学したばかりの１年生に対し、人に接するボランティアに関わる大学生が、自身の活動体験やコロナ禍での取り組みや思いなどを話しました。今後、幼稚園や福祉施設などでのボランティア活動に向けた事前学習として、ボランティアを身近に感じてもらうことが目的です。2020 年度はコロナウイルスの感染防止の観点から、大学生の話の部分のみオンラインで行いました。

日　時　2021 年２月 19 日(金)10：10 ～ 11：50
方　法　Webex
対　象　二階堂高校　保健福祉コース　１年生 17 名
参　加　明大生３名

情報コミュニケーション学部２年　佐藤 李香

今回初めて高校生に自分の話をするという経験をしましたが、どのように話したら自分の経験や考えが伝わるのだろうかと悩みましたし、当日もとても緊張しました。でも、二階堂高校の生徒さんの和気あいあいとした温かい雰囲気が画面から伝わってきて、リラックスしてお話することが出来ました。講演後、生徒の方々がそれぞれ感想を述べてくださいましたが、特に「話を聞いてボランティアをやってみたいと思った」と言ってくれた子がいてとても嬉しかったです。ボランティアは自分から動き出すことで始まるものだと思いますが、私たちのメッセージがそのはじめの一歩を後押し出来たならこれ以上嬉しいことはありません。自分自身も改めてボランティアに対する姿勢を考える貴重な機会になったと思います。

農学部２年　今橋 優月

二階堂高校のボランティア入門講座にて、自身のボランティア体験をお話しさせていただきました。

ボランティアは「人のため」というイメージがありますが、それだけではなく、自分の気持ちの変化や相手の嬉しそうな表情に出会うことができる大切な機会のひとつだと思っています。現在、新型コロナウイルスの感染拡大という状況下で、できるボランティアは限られています。しかし、今後動き出せるときに向け、高校生のみなさんの思う「ボランティア」へのハードルを少しでも下げるお手伝いが出来ていたら幸いです。

また、わたし自身が女子校出身ということもあり、画面越しではありましたが、二階堂高校のみなさんの雰囲気がとても懐かしく和やかな気持ちで発表することができました。ありがとうございました。

情報コミュニケーション学部２年　須藤 佳織

高校生のみなさんにボランティア体験について感想や考えたことを伝えるにあたり、自分でも改めてボランティアの楽しさや魅力を再認識することが出来ました。

高校生はとても明るく、お話していて私の方が元気をもらえたように思えます。オンラインという特殊な形でしたが、生徒の皆さんが手を振り反応してくださったおかげで私たちも話しやすかったですし、対面できなくてもコミュニケーションを取ることが可能なんだと嬉しく思えました。

私自身、今回のように人前でお話するという経験が初めてで、自分の言葉で思考や感情をお伝えするのは難しかったですが、少しでもボランティアの魅力が伝わっていたら嬉しいです。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

▲オンラインで活動の体験紹介をする大学生

▲教室で大学生の話を聞く高校生たち

学生の自主的な活動の支援

SNSを通じた情報発信(学生有志・明治2020和泉チーム)

当初、来るべくオリンピックを盛り上げるために、ボッチャの体験会をはじめとするパラスポーツの体験会や、都内の観光スポット等の紹介、本学の留学生を交えたツアーなど、様々な企画を行う予定でした。しかし、対面での活動が難しくなったことに伴い、SNSを立ち上げ、団体のPRや、パラスポーツの紹介、観光案内などの情報発信を日本語と英語の両方で行いました。

※秋以降も活動の再開が難しい状況が続く中、2021年度に全メンバーがキャンパスを移動してしまうことに伴って活動の継続が困難となったため、アカウントは11月末を持て閉鎖し、活動を一旦休止することとなりました。

日　時　2020年7月～11月
方　法　Twitter、Instagram
センターの役割　相談(和泉)

▲▼Instagram　自己紹介投稿

都内で気軽に農業ボランティア

農学部2年　山下 紗佳

農学部2年生だった私は、泊りがけで遠方の農家さんのもとを訪ねてみたいと考えていました。しかしコロナウイルスの蔓延のため、希望を叶えることができませんでした。そこで、東京都の広域援農ボランティア*や他の農業系団体からの紹介により、都内で半日程度ずつ農業ボランティアを行いました。9か所の農家さんのもとで、のべ13回活動しました。

▲都内の畑での活動

活動内容は訪問先によって、また時期によって様々でした。例えば、野菜の播種、定植、除草、収穫と片付け、梨の受粉作業、トマトの整枝、ブルーベリーの剪定、直売所に出す野菜の調整と袋詰め、堆肥づくりのための落ち葉集めをしました。都市農業では少量で多品目を栽培している農家さんが多く、色々な農作物の管理を体験させていただきました。

活動を通じて大学で学んでいることが生産現場にどう結びついているのかが分かり、毎回新たな発見がありました。また、農家さんや地元のボランティアの方々と交流して、地域の繋がりを実感することができました。

最後になりますが、農業に興味のある人にもない人にも、この投稿を読んでくださっている全ての人に、このボランティアをおすすめします。広々とした農地で体を動かすとリフレッシュになりますし、収穫したての新鮮な野菜をいただくと本当に美味しいです。ぜひ気軽に始めてみてくださいね！

＊広域援農ボランティア …東京都農林水産振興財団が事務局を務める、区市町村の枠を越えて東京の農業を応援する登録制の援農ボランティア

明大祭オンライン開催におけるスライド展示(Tree)

日　時　2020年11月1日(日)～3日(火)

方　法　バーチャルSNS「cluster」

参　加　15名

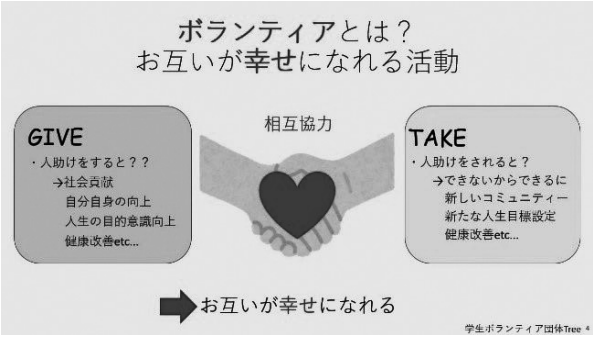
内　容

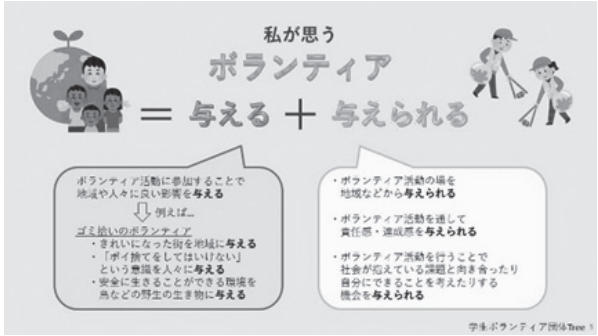
明大祭にて、4年生は昨年のTreeの活動について、写真入りのスライドを作成し、3年生は自分が考えるボランティアについてスライドを作成し、展示した。

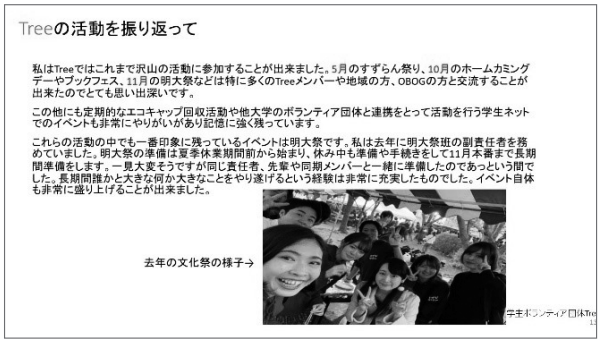
センターの役割　相談(駿河台)

短期間ではあったが、Treeの活動についても知ることができ、もう一度ボランティアについて考え直すことができた。また他メンバーの考えるボランティアについて知り、一概にボランティアといっても様々な解釈があるということがわかった。このように多様なメンバーが在籍していることはTreeの最大の特徴であると思うため、この特徴を今後も活かし、様々な意見を出し合うことで、さらに良い団体にしていきたいと感じた。また今年度は残念ながらオンラインでの実施となったが、来年度は来場者の方と直接交流できると良いと思う。

コロナ禍となり、対面での活動はできなくても、オンラインを活用し、できることを考え、実行していくことが大切だと思った。また、新たな試みとしてゼロから一を形作ることへの難しさと、実現後の達成感を改めて学ぶことができた。今回学んだことを活かし、これからも自分たちができることに取り組んでいきたいと考える。







▲3年生展示

Tree 総会＆地域との交流会（Tree）

日　時　2020 年 12 月 21 日(月)17：00 ～ 18：00

方　法　Zoom

参　加　学生 13 名、ちよだボランティアセンター職員 1 名、教職員 3 名

内　容

例年年末に実施している総会を、今年度は Zoom で開催した。日頃 Tree の活動を支援してくださっている、ちよだボランティアセンターの職員をお招きし、ホームカミングデー班、明大祭班、渉外担当が活動報告を行った。また Tree の代表・副代表の代替わりの挨拶が行われ、代表・副代表の役職が正式にバトンタッチされた。

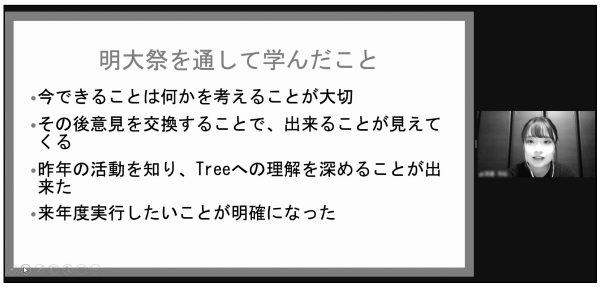
センターの役割　相談・学外団体への連絡（駿河台）

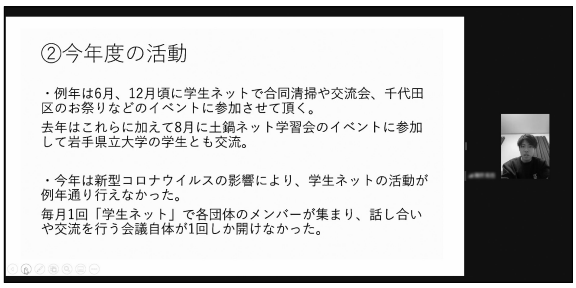
文学部 3 年　筒井 慎也

今年はコロナ禍ということもあり、昨年のようにオフライン（対面）で総会を行うことができず、オンライン上での開催となりました。この総会を通して、今年の Tree 全体の活動報告を聞き、改めて Tree の活動を認識することができました。

コロナ禍で思うように活動できなかった中でも、ホームカミングデー班、明大祭班、ともにできることを探し活動できたと思います。また一方で、今年の活動を通してオンライン上での活動における改善点も見つかったという事なので、来年は改善できるように引き継ぎ、さらに充実した活動ができたらいいなと思いました。

またこの総会に参加したことで、このような状況下でも Tree はできることを探して活動してきたことに気づき、私自身、今年はあまり活動に積極的に参加できていなかったので、来年は自分もできることを見つけ、活動に貢献していきたいと思いました。





▲ 2020 年度 Tree 総会

南相馬フリースペース（学生有志）

毎年、夏休みと冬休みに福島県南相馬市を訪れ、地域の小中学生の学びと遊びの支援を行っています。勉強も遊びも「のびのびと自分らしくできること」をモットーに活動を続け９年目を迎えます。
2020 年度はコロナ禍のため現地訪問を諦め、夏と秋にオンラインでの活動を模索しました。

〈夏期休業期間〉

７月後半に企画グループを立ち上げ、オンラインで話合いをはじめました。内容を「オンラインモザイクアート制作」と決め、折り紙モザイクアートを検討しましたが、準備期間が短いことから「オンラインぬりえモザイクアート」の企画を立てました。例年どおりの日程で子どもたちに募集しましたが、応募は１人で、開催することができませんでした。

〈秋学期〉

日　時　2020 年 11 月 15 日(日)・22 日(日)　各１時間
内　容　東日本大震災で被災した小中学生の支援
主　催　小高区小中学校児童生徒親の会　および　福島大学学生ボランティアセンター
方　法　Zoom　　**場　所**　大学生・小学生とも自宅

	参加	体験	内容
11/15(日)	4（うち 明大生 2）	2(2 家族)	勉強に疲れたこどもの話し相手、なぞなぞ大会、近況報告
11/22(日)	6（うち 明大生 3）	2(1 家族)	学習支援。15 分の休憩時間でスライドを使ったなぞなぞ。学習時間と休憩時間を区切り学習環境を整える

課　題

支援の仕方

対面開催の支援方法は教えるというよりはマンツーマンで子どもの様子をよく観察し、つまづいている箇所を見極め必要なときにそっと介入したり、こどもからの質問を受ける形をとっていた。
オンライン開催になると時間が１日１時間と短くなるため、学習も遊びも両方寄り添うことは難しくなる。保護者からのニーズが高いのは学習支援だが、オンライン上だとこどもの様子を全方位から観察することや、書いている様子をそっと覗くことができないため、学生がこどもの困り感を察することが困難となる。今までの支援方法はどこでつまづいているか自分で分かるこども以外には効用が低く、中学生はともかく小学生には不向きな方法であることがわかった。

保護者の信頼

対面と比べオンラインは保護者の信頼を得るのが難しかった。この点についてはコロナ禍が続いて保護者や子どもがオンラインでの学びに慣れてきたかもしれず、2021 年度は好転する可能性もある。

センターの役割　相談（生田）

企画者の声　新たな挑戦で見えた子ども達のニーズ

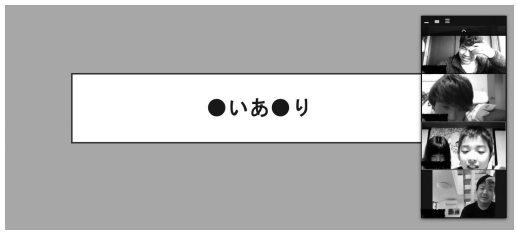
農学部３年　大矢 祐実

「今年はオンラインですね。」
2020 年７月、今年のフリースペースの活動のオンライン開催が決定した。企画を進める中で、オンラインだから学生側も子ども達側も手間が省けて多くの人が参加してくれるだろうと考えた。しかし、フリースペースの活動においてこの考えは甘かったことを日を追うごとに痛感した。
私はこの活動に参加して３年目になる。現地で行う対面の活動と、オンライン開催の両方を経験した私は、南相馬フリースペースの活動には２つの目的があると考える。①子ども達が安心して勉強できる

環境を作ること。②学校を超えた友達や学生・社会人・地域の方々と直接関わることを通して、学校生活だけでは得られない経験をすること。

今回の活動では、全８名の福島大学と明治大学の学生が企画に参加した。当初、「福島のひまわりのモザイクアート」を子ども達と一緒に作る企画を提案した。開催が夏休み期間であったこと、形に残るアート作品を作ることでコロナ渦でも子ども達の思い出を作ってあげたかったからだ。しかし、募集をするためメール配信を行った結果、参加希望人数が１人だった。現地で一緒に活動することが出来ない故に、子ども達や保護者の方に企画の内容が上手く伝わらなかったからだ。その後、もう一度企画メンバー全員で案を考え、「週末１時間のオンライン学習支援教室」を開催することにした。長期休みの期間にとらわれず、子ども達からの勉強の質問やモチベーション管理に役立ててもらう目的だ。その結果、２回のオンライン開催を行うことが出来た。

▲学習支援の様子



▲休憩時間のなぞなぞの工夫

振り返ると、今回の活動は私が考えるフリースペースの目的に沿ったことで２回目の企画案が通ったように思う。モザイクアートは②だけになってしまい、本来の活動目的である①の要素が無くなってしまった。それに対して、オンライン学習支援は①をメインにしつつ、なぞなぞや言葉遊びゲームを随時挟むことで②の要素も入れることが出来たと考える。対面では学生側が子ども達の勉強や遊びのニーズに合わせて活動することが容易だが、オンラインでは目的を定めておかないと活動しにくい点で難しかった。

私は今年の活動を通して、コロナ渦という困難な状況だったからこそ、対面でのフリースペース活動の目的や子ども達のニーズを再確認することが出来たと考える。そして、オンラインという新たな挑戦を行い、大変ながらも「もっと何か出来るのではないか」と考えることが楽しかった。共に企画した学生やアドバイスに乗ってくださった社会人の方々への感謝を胸に、次のフリースペース活動に繋げていきたい。

エネルギー環境ワークショップへの出展（LINKs）

川崎市立枡形中学校で毎年複数の企業が協力して行われるエネルギー環境ワークショップに、若い世代の発想も取り入れたいと、2020 年度初めて明治大学に出展者として声がかかりました。公認サークル LINKs が参加し、プラスチックごみによる環境汚染とその解決策をテーマにした講習と実験を行いました。

▲実験の手順を説明

大学から対面活動許可が降りるまで時間がかかり、当日の授業以外は、メンバーは対面できず、準備や話し合いはすべてオンラインで行うことになりました。Zoom、Miro、Remo、LINE などのオンラインツールを上手につかって情報共有し、実験準備やスライド作成もオンラインで話し合いながらメンバーで協力分担して行いました。企画のみのメンバーと当日参加のメンバーとの間に温度差が生じるという課題が残りました。中学校の先生方の見守りとサポートにより、中学生はワクワクしながら実験にとりくみ、ディスカッションや実験を取り入れた、大学生ならではの視点で楽しい授業を行うことができました。後に大変心のこもったお礼状が中学生から届きました。

日　時　11 月 20 日（金）13：30 ～ 15：20

内　容　中学校の総合的な学習の時間「エネルギー環境ワークショップ」にて環境に関する授業を行う

①プラスチックごみによる環境問題についての講習

②ペットボトルの代替えとして発案された「つかめる水」の作成体験（アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムの化学反応実験）

主　催　川崎市立枡形中学校　　**場　所**　川崎市立枡形中学校
参　加　3名 ＊企画 6名
センターの役割　相談・中学校との連絡（生田）

企画者の声

農学部 2 年

▲作成したつかめる水

コロナという初めての環境の中でまた初めて参加する活動であったこともあって何度も困難な状況に直面しました。まずこの活動が本団体の対面活動としては今年度最初の活動となったため他メンバーとも協力して活動を再開するための申請作業から始まりました。感染防止策や緊急時の連絡体制の検討など慣れない大量の作業を短期間で行わなくてはならない点は非常に困難でした。

また今回の活動の内容は 2 時間程中学校で講師として授業を担当させていただくというものでありその内容を感染対策と共に短期間で考えることは大変でした。中学生に興味を持ってもらうためにはどうすればいいのか、どうすればスムーズに実施できるかについて対面で話し合えない中で何度も Zoom などのデジタルツールを駆使して話し合いを重ねました。本来であれば綿密な話し合いが必要な場面ですがオンラインで話し合いを円滑に行うことの難しさも感じました。

当日は準備に多くの時間を掛けられなかったこともあり不安も多くありましたが、中学校の方々の協力もあって無事やり遂げることができました。

初めてのこと尽くしで大変な活動であったことは事実ですがその分多くの経験を積むことや大きな達成感を感じることができました。

理工学部 3 年

今回私たちは“楽しさと原点”を学びました。大学生になり、授業に受け身になっていた私にとって、中学生の、仲間と楽しみ、進んで実験を行う姿はとても新鮮でした。

私がボランティア活動を続けている理由は、「新しい世界を知って考えや仲間の輪を広げたい」からです。ボランティア活動を始めて 3 年が経ちますが、環境教室は私にとって今までにない新しい機会でした。今回理系の大学生という立場で、先生として授業できたことを誇りに思います。

そして、もう一つ思ったことがあります。学生の時に「やりたいことをやれ」とよく言われますが、それは時間の余裕だけではなく、「学生」の立場だからできることが沢山あるという意味だということです。利益関係なく、やりたいことに素直に挑戦できる機会が溢れています。私は、ボランティアサークルに入って、思ってもいなかった経験を沢山することができました。

これを見てくださった方が、自分のやりたいことに素直に向き合い、輝く大学生活を送れますように。

農学部 2 年

今回のボランティア体験で特に感じたことは、オンラインにおいて人を活動に巻き込むことの難しさです。

今回、環境教室を開くにあたってサークルでの対面活動が当日を除き禁止となったため、準備活動の全てがオンラインのみとなってしまいました。それによって、当日に参加するメンバーと当日に参加しないメンバーの中で活動への温度差が生じてしまい、当日活動に参加しないメンバーを巻き込んだ活動ができなかったと感じています。

活動準備では、オンラインツールの Zoom、Remo、Miro を用いて会議及び各種資料の共有や作製を行いました。Zoom での会議なども計画的に行えず、当日参加メンバーのみでのやり取りが増え、情報を十分に共有できず、仕事の分担がうまくできなかったことが課題であると思います。

今後もオンラインでの活動があると思いますが、“どのようにしたら活動に参加しやすいか？”“オンラインでの仕事分担方法”を考えて動けたらと思います。

活動申請、オンラインでの準備など今までと異なることが多く、なれない部分もありましたが、貴重な経験をできたと感じました。

最後に枡形中学校での環境教室で、実験を通して子どもたちの楽しそうな姿を見ることができて嬉しかったです。

登戸まちなか遊縁地(LINKs)

再開発の進む登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の地域活性化とコミュニティの再構築をめざすイベントで、公認サークル LINKs が新型コロナウイルス感染防止対策やスムーズな運営のサポートボランティアを行いました。感染対策のための検温、消毒の誘導が大変でしたが、整列や案内を工夫して、入場がスムーズにいくようサポートすることができました。

日　時　2020 年 11 月 21 日(土)11：00 ～ 16：00
内　容　地域イベントの感染拡大防止対策および運営サポート(来場者の検温、手指消毒の呼びかけ、アンケートの案内、並ぶ際の声かけ、設営準備、設営撤去など)
主　催　登栄会商店会
場　所　向ヶ丘遊園北側エリア(区役所通り/東通り商店街/多摩区役所近くの空地など)
参　加　5名
センターの役割　相談(生田)

▲感染予防対策の周知

参加者の声

農学部 2 年

私個人としては 2020 年度初めてボランティア活動に参加しました。このイベントは、今まで参加してきたものと比べて開催の目的が明確で、内容も目的と直結していると感じました。地域の活性化を目的としていて、地域のお店の出店や住民への街づくりに関するアンケートなどを行っていました。実行委員の方が地域を盛り上げようという強い気持ちをもって実行されていて感心しました。

今回参加するにあたって苦労したことが、大学への活動再開申請です。対面での活動を行うために大学からの許可を得る必要があり、感染防止対策やガイドラインなどの書類を作成しなければなりませんでした。サークルのメンバーと相談しながら作りましたが、審査に時間がかかり許可が下りたのが活動日の 2 日前だったため、開催側の方にはご迷惑をおかけしてしまったと思います。

また、当日の感染防止対策にも苦労しました。入場者全員に検温と手指消毒を行ったのですが、たくさんの人が来場したので誘導や案内が大変でした。この活動に限らず、全体の様子を俯瞰して見る人が必要だと感じました。

コロナ禍ということで大変なことがたくさんありましたが、無事に活動を終えることができて安心しました。書類作成や当日の活動に協力してくださった方々に感謝します。

パラスポーツ競技　ボッチャ体験会(LINKs)

パラスポーツへの興味を深めるため、新型コロナ感染予防のため希薄になってしまいがちな人と人との交流をつなぐため、公認サークル LINKs が地域の子どもたちを対象にパラスポーツ競技ボッチャの体験会を開きました。

コロナ感染対策のため、人との間隔や投擲の順番、子どもたちが声での応援の代わりにチームカラーの旗で応援するようにするなどの工夫を凝らし、また、大学生は当日は限られたメンバーのみを対面参加とし、残りのメンバーは Zoom で参加するという、対面とオンラインのハイブリット参加で行いました。オンラインで参加した学生はルール説明や応援、終了後のインタビューを行いました。

日　時　2020 年 12 月 4 日(金)・14 日(月)
内　容　小学生とボッチャ体験会
主　催　公認サークル Links　　**協　力**　明大スポーツ新聞部
方　法　対面　および　オンライン(Zoom)
参　加　11 名　　**体　験**　小学生 30 名　　**センターの役割**　相談(生田)

日時	場所	対面参加	オンライン参加	体験
2020 年 12 月 4 日(金)	KFJ 多摩すかいきっず	3 名	3 名	小学生 6 名
2020 年 12 月 14 日(月)	三田こども文化センター	3 名	2 名	小学生 24 名

企画者の声

理工学部 2 年　池田 新太郎

今回の企画は明大スポーツ新聞部の協力のもと 9 月初頭に立ち上がり 12 月実施を目指して、実に 3 か月に及ぶ準備期間を経ての活動となりました。準備期間では主に、新型コロナウイルスの感染対策や感染発覚後の対応などを先方と確認しながら作成することになり、今までそういった資料の作成をした経験がなかったためどのように作れば良いのかわからず頭を悩ませました。

▲ボールを転がす

今回は自粛期間で減ってしまった子ども達と大学生の交流の機会を設け、直接の接触がないパラスポーツのボッチャを一緒に楽しむというものでした。また、明大スポーツ新聞部のメンバーをオンラインで会場と繋ぐという、対面とオンラインを混ぜたハイブリッドな形態での活動でした。先方のオンライン環境の確認やオンラインのメンバーにも焦点を当てて進行していくのはたくさんの話し合いを重ねる必要がありました。

当日は子ども達が 2 チームに分かれ、お互い応援しながらボッチャをプレイして大盛況でした。ボールが投げられジャック（目標となる球）に近づくたび歓声が上がり学生たちも盛り上がるゲームが展開されました。簡単な動作で参加することができるので年齢差があっても白熱したゲームを楽しむことが出来ました。

コロナ禍での活動は準備に時間がとられ忙しかった印象が強く残りましたが、それゆえに子ども達が楽しんでいる様子を見るととてもやりがいがある活動であったとも感じました。

旅をする中で見えた新たな価値観

農学部３年　池田 航介

丁度、コロナが日本にはやり始めたころ、私は同じ大学の友人と一緒に九州の農家を巡る旅をしていた。

いろんな形の農業を学びたい！そんな一心で多くの人に連絡をし、つながりがつながりをつくり、本当にいろんな人にお世話になりながら旅をしていた。

▲エコビレッジとの出会い

その時、人の紹介を受けてエコビレッジ*と呼ばれる場所にもいくつかよった。そのエコビレッジの出会いが私にとって衝撃的なものだった。エコビレッジは基本的に自給自足。そこであるものをその場所で循環させ限りなく環境負荷の低い暮らしを実現していた。

▲ SHIBUYA QWS ステージで発表

そこに住む人は社会的に見たら貧困層くらいの収入だし、もともとホームレスだったり障害を持っている人までいた。それでも共に農を営みながら幸せそうに暮らしているその空間に私は感動した。今まで農の魅力はなにかと思い農地に子供を呼んだり食育活動をしていたが、このエコビレッジでは社会の貧困問題も精神的な問題も環境問題もすべて解決できるような可能性を秘めていると私は感じたのだ。

この経験、感動がきっかけになり私は今 Perma Future**という団体を立ち上げ活動をしている。

具体的には旅を通じて知り合ったエコビレッジで生産されてる地球にも健康にもよいお茶の葉を使った地球健康茶を開発中だ。

私はエコビレッジの価値観やライフスタイルを広げること、つまり農的な暮らしやエコライフを広げることがこれからの社会問題や環境問題を解決するために大切だと考えている。だからこそ、今、「エコビレッジの健康茶」をエコビレッジの人と一緒に共同開発しこの商品と一緒にこれからの社会を考える一つのきっかけにするために行動している。

*エコビレッジ…人間が自然界に害を与えず、調和した生活を行っている場所。

** Perma Future…筆者が代表を務める団体。環境・経済・幸せが循環する持続可能な豊かな社会の実現を目指して農家と地域を結びつけるアプリの開発などのプロジェクトを進めている。

ボランティアセンター来室者・活動参加者

	来室者	うち学生	センター主催・コーディネートの活動参加者※
2013 年度	6,057	5,468	
2014 年度	6,913	6,216	
2015 年度	8,321	7,647	
2016 年度	9,417	8,873	
2017 年度	10,239	9,581	
2018 年度	12,305	11,633	2,601
2019 年度	12,008	11,403	2,347
2020 年度※※			2,304
累計	65,260	60,821	7,252

※ 2018 年度から集計
※※活動参加者は全てオンラインでの参加者

外部事業への協力・取材など

外部委員委嘱

・杉並区社会福祉協議会杉並ボランティアセンター　運営委員（運営委員会 3 回、調査部会 3 回）
・杉並災害ボランティアネットワーク連絡会　委員（連絡会 1 回）

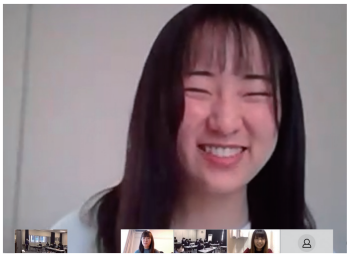
協力・取材対応

日時	対応先・媒体	対応人数等
2020 年 7 月	杉並区生活支援体制整備通信「杉並ぐるる　8 月号」	学生 2 名、コーディネーター 1 名
2020 年 11 月 17 日（火）	日本女子大学 大学改革推進室・IR 推進室	コーディネーター 2 名
2020 年 10 月～ 2021 年 3 月	川崎市多摩区広報誌「ご近所パワーアップ通信」	コーディネーター 2 名
2020 年 12 月 24 日（木）	杉並区社会福祉協議会広報誌「すぎなみ社協　3 月号」	コーディネーター 1 名
2021 年 1 月 14 日（木）	杉並ボランティアセンター「ボラン・て　2 月号」	学生 1 名、コーディネーター 1 名

※オンラインにて対応

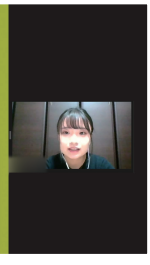
発行物

明治大学ボランティアセンターパンフレット（2020）



明大祭を通して学んだこと

- 今できることは何かを考えることが大切
- その後意見を交換することで、出来ることが見えてくる
- 昨年の活動を知り、Treeへの理解を深めることが出来た
- 来年度実行したいことが明確になった



2020年度　明治大学ボランティアセンター活動報告書
発　行　日　2021年11月発行
発　　行　明治大学ボランティアセンター